科目名	教養演習	単位数	1	担当教員	西山（にしやま）みちよ・鯛谷（たいたにかずよ）和代・堀内（ほりうちゆき）由紀
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものであり、授業を通して女性の「身体」と「生命」についての理解を深めること、および社会生活を送るうえでの「常識」を身につけていく。 保育者は子どもに生命の大切さを教え、子どもたちの生活や行動の模範となることが求められる仕事である。そのためには、まず自分自身の身体や生命を大切にし、美しい立ち居振る舞いや言葉遣いで日常生活を送るよう努める必要がある。このことを真剣に受け止めたうえで受講して欲しい。
到達目標	１．若い女性としての自分の身体や生命についての理解ができている。 ２．社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけている。

授業計画		
	第１回	授業内容や評価方法等のガイダンス・「教養」とは何かを考える
	第２回	人間の体のつくり
	第３回	女性ライフサイクルと体の変化
	第４回	月経・妊娠について・小テスト
	第５回	出産について
	第６回	性感染症と健康への影響
	第７回	女性の病気について
	第８回	総括：命を守るということ・レポート
	第９回	社会人としてのマナー①　立ち居振る舞いの基本・応対の基本姿勢
	第 10 回	社会人としてのマナー②　職場のルールとマナー
	第 11 回	訪問と応対のマナー、もてなしのマナー
	第 12 回	言葉づかいと人間関係のマナー
	第 13 回	電話・手紙・文書マナー
	第 14 回	食事マナーと日本食への理解
	第 15 回	まとめと小テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前にテキストを読んでくること。	復習：　日常生活で活用してみること。 授業で学んだことは確実に理解し、自分の知識・技術として身につけること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 第２回から第　８回：小テスト・レポート（５０％）、授業態度（５０％） 第９回から第 15 回：小テスト（５０％）、実技・授業への取り組み（５０％） ※この二つの評価を合計して最終的な評価を行う。
教科書	『新生活教養』（近喰晴子他、建帛社）
参考文献	『保育のマナーと言葉』（長島和代編、わかば社）
注意事項	１．授業は第２週～第８週（担当：西山）はクラスごとに行い、第９週～第１５週（担当：鯛谷・堀内）はクラスを２つに分けた少人数グループで行う。 ２．卒業および資格取得のための必須科目なので、全員が履修すること。

科目名	基礎演習	単位数	1	担当教員	みやうちじゅんぺい　なかむらよういち　しみずすみこ 宮内 淳 平・中村陽一・清水澄子
		授業形態	演習		

授業の内容	保育者として必要な専門科目を十分に理解し、効果的に学習を進めるための基礎力を身につけることを目標とする。第１に文章表現力を身につける。第２コミュニケーション能力を向上させる。第３に、小学校、中学校、高校で学んだ基本的な知識を復習し、保育士や幼稚園教諭などの採用試験に役立つ基礎学力を強化する。
到達目標	１．実習日誌や指導案作成に必要な文章力を身につけている。 ２．人前で自分を表現する能力を身につけている。 ３．専門科目の学習の準備としての数的処理能力と時事問題の知識を身につけている。 ４．自治体の保育士採用試験の教養問題について、学んだ分野については６割から７割が解答できる。

授業計画		
	第１回	良い文章とはどのような文章なのか。端的に言えば、読む人にとって読みやすい、読んでわかりやすい、理解しやすい文章が良い文章の基本である。そのためにはどのような勉強が必要であるか。体系的に勉強する。特に主語述語を中心として勉強する。
	第２回	１回目に続き、良い文章とはどのような文章なのか。センテンスの区切り方、修飾語と被修飾語の位置などについてプリントを教材として勉強する。いかに短い文章を作るかを学ぶ。
	第３回	敬語の使い方、丁寧語の使い方及び尊敬語についてプリントを教材として勉強する。また、いかに短い文章を作るかを学ぶ。
	第４回	敬語の使い方、丁寧語の使い方及び尊敬語についてプリントを教材として勉強する。また、漢字や語彙の習得に努める。また、いかに短い文章を作るかを学ぶ。
	第５回	文学作品を読み・聴きし、また、第三者の話を聞き内容等をまとめる。
	第６回	文学作品を読み・聴きし、また、第三者の話を聞き内容等をまとめる。
	第７回	まとめ
	第８回	プレゼンテーション①　自分を知ろうーエゴグラム分析による性格診断
	第９回	プレゼンテーション②　いまの私と理想の私ーどんな保育者になりたいか
	第 10 回	プレゼンテーション③　グループワークー討論と発表
	第 11 回	保育士採用試験、幼稚園教諭採用試験の概略の説明　SPI などの算数の復習
	第 12 回	小学校高学年から中学校での数学の復習で採用試験に出題されているものを勉強　保育時事（新聞から）
	第 13 回	小学校や中学校で学んだ社会科の復習　保育時事（新聞から）
	第 14 回	小学校や中学校で学んだ理科の復習　保育時事（新聞から）
	第 15 回	作文と面接の基礎　保育時事（新聞から）　簡単な専門試験の内容紹介

授業に対する予習・復習		
	予習：　各担当教員が授業中に指示する。	復習：　各担当教員が授業中に指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（４０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	授業中に適宜指示
注意事項	１．各クラスを 2 グループに分け、1 つのグループは上記授業計画の第 1 週目の授業内容から始め、もう 1 つのグループは第 8 週目の授業内容からスタートする形で進める。 ２．演習科目なので、聴講するだけでなく積極的に参加すること。 ３．卒業及び資格必修科目なので、全員が履修すること。

科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	ひらた　よういち 平田　陽一
		授業形態	講義		

授業の内容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。
到達目標	１．憲法が制定された目的を理解している。 ２．憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を持つことができる。 ３．自己の判断により国の政策を選択できる。

授業計画		
	第１回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）
	第２回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）
	第３回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）
	第４回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決するということ）
	第５回	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）
	第６回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）
	第７回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するため分割するということ）
	第８回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）
	第９回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）
	第 10 回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）
	第 11 回	参政権など（国民の意思の表明などについて）
	第 12 回	立法機関（国会の役割について）
	第 13 回	行政機関（内閣の役割について）
	第 14 回	司法機関（裁判所の役割について）
	第 15 回	憲法の現代的諸問題

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習は困難と思われるので、特に必要としない。	復習：　単なる復習ではなく、基本的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）
参考文献	なし
注意事項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ
		授業形態	実技		

授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。さらに、将来幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように、学生の運動に関する資質の向上を図る。
到達目標	１．運動・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 ２．自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 ３．運動・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 ４．幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 次にあげる３つのコースから選択できる。(第 10 時限までは共通) ①平常コース ②野外環境教育実習（8 月末から 3 泊 4 日） ③スキー実習（3 月下旬 3 泊 4 日） （②③に係る費用は全額学生負担） 履修方法、受講上の注意事項等について説明	第 13 回	ソフトバレーボール②　ゲームを楽しむ
		第 14 回	バスケットボール②　シュート率をあげる
		第 15 回	バスケットボール③　ドリブルの上達を目指す
		第 16 回	幼児の体操について考える
第２回	体ほぐし 豆袋をつかった遊び	第 17 回	幼児の体操を創作し、発表の練習をする
第３回	リズミカルに動く「ダンス」① いろいろなステップ	第 18 回	ソフトバレーボール③　パス回しを工夫する
第４回	リズミカルに動く「ダンス」② 友達と関わって	第 19 回	バレーボール①　パスの上達を目指す
第５回	リズミカルに動く「ダンス」③ 動きの発見	第 20 回	バレーボール②　ルールを知る
第６回	リズミカルに動く「ダンス」④ 作品を創る	第 21 回	バスケットボール④　全面コートでのゲームを体験する
第７回	リズミカルに動く「ダンス」⑤ 発表会	第 22 回	バドミントン③　作戦を工夫したゲーム
第８回	ドッチボール		
第９回	ソフトバレーボール①　ボールに慣れる		
第 10 回	バスケットボール①　パスを正確に出す		
第 11 回	バドミントン①　ダブルスのゲームのルールを知る		
第 12 回	バドミントン②　ダブルスのゲームを楽しむ		

授業に対する予習・復習	予習：　授業内で行っているストレッチを実践する。	復習：　授業内に行った幼児の体操、ダンスをノートに記録し、動きの復習をする。 ゲームのルールをノートに記録し、復習する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（１０％）、作品（１０％）、発表（１０％）、実技（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書	『子どもの運動・表現遊び』（宮下恭子編、大学図書出版）	
参考文献	なし	
注意事項	１．実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 ２．意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。 ３．「②野外環境教育実習」、「③スキー実習」に係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	新戸（しんど） 信之（のぶゆき）
		授業形態	実技		

授業の内容	長寿社会 において、生涯を通じて元気でイキイキと生活するためには、生き甲斐づくり、健康づくり、体力づくりが必要である。また、幼児教育の現場において職務を遂行するためには、自らの行動、防衛のためだけでなく、子どもを守るための体力も求められる。 本授業では、内発的な動機付けとなる“楽しさ”や“面白さ”が内在する身体活動、即ちスポーツや運動遊びの基礎的な技術及び知識を習得することにより「生涯スポーツ」への契機を与えることをねらいとする。
到達目標	１．生涯にわたる自らの豊かな人生、社会に貢献できるたくましい心と身体の必要性を理解している。 ２．自己の健康管理、維持・増進に取り組み得る技術及び知識を習得している。 ３．集団生活に必要な規律を理解し、協調性、社会性を身につけている。 ４．幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 次にあげる３つのコースから選択できる。（第10回までは共通） ①平常コース ②野外環境教育実習（8月末から3泊4日） ③スキー実習（3月下旬3泊4日） （②③に係る費用は全額学生負担） 履修方法、受講上の注意事項等について説明
第２回	アイスブレイキング・ゲーム
第３回	コミュニケーションゲーム
第４回	イニシアティブゲーム
第５回	大縄跳び、縄跳び
第６回	チャレンジ・ザ・ゲーム
第７回	ドッヂビー、ドッヂボール
第８回	ソフトバレーボール
第９回	インディアカ
第10回	フォークダンス
第11回	アルティメット① ルールを理解する、ミニゲーム
第12回	アルティメット② ゲームを楽しむ
第13回	バドミントン①　各種ストローク練習 簡易ゲーム
第14回	バドミントン②　ダブルスでのゲーム
第15回	バドミントン③　シングルスでのゲーム
第16回	バレーボール① パス、サーブ、スパイクの練習
第17回	バレーボール② ゲームを楽しむ
第18回	フットサル① ドリブル、トラップ、シュートの練習
第19回	フットサル② ゲームを楽しむ
第20回	バスケットボール① パス、ドリブル、シュートの練習
第21回	バスケットボール② ゲームを楽しむ
第22回	縄跳び

授業に対する予習・復習	予習：　日常生活で適切な栄養の摂取、身体活動の実施および休養を確保し、また、健康・スポーツに関する情報に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践する。	復習：　同左
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（１０％）、作品（１０％）、発表（１０％）、実技（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書	なし （必要に応じ資料等を配布）	
参考文献	なし	
注意事項	１．実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 ２．意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。 「②野外環境教育実習」、「③スキー実習」に係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ
		授業形態	講義		

授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。
到達目標	１．健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身につけている。 ２．各年齢に適した食事や運動実践の方法について理解している。 ３．将来幼児教育者として自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得している。

授業計画	
第１回	受講上の留意事項について 現代社会と健康
第２回	食事と健康
第３回	心の健康
第４回	青年期と性
第５回	運動と健康
第６回	体力について
第７回	トレーニングの基礎理論
第８回	スポーツ傷害と応急処置 講義のまとめ
第９回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

授業に対する予習・復習			
予習：	次時の授業に関連する箇所の教科書を読み、冒頭の問いの答えを考えてくる。	復習：	復習問題の内容について、配布プリント、教科書をもう一度読み、覚えてくる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（５０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）※授業内で小テストをおこないます。
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－』（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵤木秀夫編、化学同人） 『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）
注意事項	11 月頃より実施

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	新戸（しんど）　信之（のぶゆき）
		授業形態	講義		

授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。
到達目標	１．健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身につけている。 ２．各年齢に適した食事や運動実践の方法について理解している。 ３．将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識が習得できている。

授業計画		
	第１回	受講上の留意事項について 現代社会と健康
	第２回	食事と健康
	第３回	心の健康
	第４回	青年期と性
	第５回	運動と健康
	第６回	体力について
	第７回	トレーニングの基礎理論
	第８回	スポーツ傷害と応急処置 講義のまとめ
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：　次時の授業に関連する箇所の教科書を読み、冒頭の問いの答えを考えてくる。	復習：　復習問題の内容について、配布プリント、教科書をもう一度読み、覚えてくる。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（５０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）　＊授業内における小テストが評価対象となる
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵤木秀夫編、化学同人） 『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）
注意事項	１１月頃より実施

科目名	宗教と文化	単位数	2	担当教員	みやうち　じゅんぺい 宮内　淳平
		授業形態	講義		

授業の内容	私達は常日頃いろいろな宗教とふれ合っている。本講義では、日常生活に横たわっている宗教に関する主要なテーマを取りあげ、それらの宗教行事に流れる思想・文化等を多角的に検討し、日本人と文化について考えてみる。また、それぞれのテーマの中で、具体的に日本の民族宗教である神道、中国の民族宗教である道教・儒教等にもふれ、民間伝承宗教行事の具体例をも取りあげ、死生観を含み宗教の役割及び機能について総合的に考えてみる。
到達目標	１．日本文化と宗教との関係について理解している。 ２．道徳と宗教の関係について知識を深め理解をしている。 ３．日常生活での宗教の役割について理解している。

授業計画		
	第１回	日常使用している「宗教」という言葉の語源とその歴史について学ぶ。特に宗教という言葉が一般に使用されたのは、明治時代になってからであるということは、あまり浸透していない。
	第２回	宗教の分類を行う。また、宗教の分類は昔から学者の数ほどあるといわれているが、ここでは概ね３つの観点からの分類を行う。
	第３回	世界の人類の中で「たばこ」と「宗教」をもたない人類はいないといわれている。ここでは、宗教の誕生と起源について学ぶ。特に幼児教育でも学ぶ、アニミズム(万有霊感信仰)について考えてみる。
	第４回	前回のアニミズムに引き続き、シャーマニズム・トーテミズムについて学ぶ。
	第５回	世界の民族宗教、特に日本の民族宗教の「神道」について学ぶ。その際関連することとなる「神話」についても学ぶ。日本の場合、神話はいろいろな面で且つ、多方面に関係してくる。例えば、暦・皇室・皇紀年についても学ぶ。
	第６回	世界の民族宗教、特に日本の民族宗教の「神道」について学ぶ。その際関連することとなる「神話」についても学ぶ。日本の場合、神話はいろいろな面で且つ、多方面に関係してくる。例えば、暦・皇室・皇紀年についても学ぶ。
	第７回	中国の民俗宗教。特に儒教・道教について学ぶ。儒教は江戸時代封建道徳として日本でも盛んであったが、その歴史と道徳との関係について学び、それらの現代的意味を考える。
	第８回	前回に続き、中国の民俗宗教。特に儒教・道教について学ぶ。儒教は江戸時代封建道徳として日本でも盛んであったが、その歴史と道徳との関係について学ぶ。また現在高等学校で漢文の授業で「論語」を読ませている。それらの現代的意味を考える。
	第９回	前回に続き、中国の民俗宗教。特に儒教・道教について学ぶ。今回は道教を中心として考えてみたい。道教は高等学校まではあまり授業でも取り上げる機会が少ない。ここでは、敬天の思想・道教と皇室との関係や皇紀年問題の関係を総合的に考えてみる。
	第 10 回	呪術と祈りについて学ぶ。呪術は英語では Magic と言われるが、決して手品ではない。日本的には「マジナイ・ウラナイ」にあたる。何時の時代も興味があるものである
	第 11 回	民間信仰について学ぶ。私たちか生活していると、色々なところで民間信仰に直面することがある。民俗学者柳田国男の定義である教祖がいない・教義がない・教理がないを中心とした信仰について考えてみる。
	第 12 回	前回に続き、民間信仰について学ぶ。私たちが生活していると、色々なところで民間信仰に直面することがある。そんな中で、現代社会と科学と宗教との関係を考えてみる。
	第 13 回	日本人の死生観『地蔵十王経』について学ぶ。日本の仏教の宗教儀礼と関連し、『地蔵十王経』を説明し、書かれている内容及び意味を理解する。又、宗教儀礼と宗教行事についても学び考える。
	第 14 回	前回に続き、日本人の死生観『地蔵十王経』について学ぶ。日本の仏教の宗教儀礼と関連し、『地蔵十王経』を説明し、書かれている内容及び意味を理解する。又、宗教儀礼と宗教行事についても学び考える。
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　配布するレジュメをよく読む。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（６０％）、課題（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	なし （教科書は使用しないが､かなりのレジュメを配布予定）
参考文献	その都度指示
注意事項	学校教育の中で宗教関係の授業を受けることは少ないので、ノートを点検する時もある。

科目名	現代社会事情	単位数	2	担当教員	まつき ひさこ 松木　久子
		授業形態	講義		

授業の内容	教養として必要と思われる一般常識や、知っておくべき時事問題を取り上げ、認識力を高められるように指導する。
到達目標	１．社会を見る目を養い、容易にだまされないような認識力を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の説明等
	第２回	地球温暖化問題について①　何が問題か
	第３回	地球温暖化問題について②　今後、どうするか
	第４回	日本の政治について：与党と野党、各政党の特徴等
	第５回	日本の選挙制度について：大・中・小選挙区制等
	第６回	憲法改正問題について：日本国憲法を見直す
	第７回	戦争について考える①　世界大戦
	第８回	戦争について考える②　民族紛争
	第９回	戦争について考える③　核の問題
	第 10 回	オリンピックについて①　古代オリンピック
	第 11 回	オリンピックについて②　近代オリンピック
	第 12 回	アメリカ大統領選挙について①　日本との相違点
	第 13 回	アメリカ大統領選挙について②　日本との類似点
	第 14 回	日本の将来について考える
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業に関連する事柄について事前に調べる。	復習：　必要に応じて発表や小テストに対応できるようにしておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（５０％）、発表（２５％）、授業態度（２５％）
教科書	なし
参考文献	必要に応じて紹介
注意事項	１．図書館を活用し、積極的に調べることを通して主体的に学ぶ態度を養うようにしてほしい。 ２．必ず新聞に目を通し、ニュースに耳を傾け、何が起きているかあるいは何が起きようとしているかに敏感になってほしい。

科目名	エコロジー入門	単位数	2	担当教員	きたのまさる　なかむらよういち 北野 大 ・中村陽一
		授業形態	講義		

授業の内容	エコロジー（ecology）は「生態学」と訳され、本来は「生物と環境の関わりを研究する学問」である。近年、地球環境問題が深刻化する中、人間と自然との共存を目指す思想や活動を表す言葉として使われている。本講義では、現代の環境問題のうち、特に生活者に関係のある大気汚染、水質汚濁、廃棄物及び地球温暖化について現状、原因及び対策を学ぶ。
到達目標	１．現代私たちが直面している環境問題を理解している。 ２．環境問題の原因を学ぶことで、私たちが取るべき行動を理解している。 ３．エネルギー問題の現状、再生可能エネルギーの特徴について理解している。

授業計画		
	第１回	ガイダンス（授業の全体計画、成績評価の方法などについて説明）
	第２回	イースター島の悲劇、環境問題の区分、環境問題と被害の発生、環境問題の被害の特徴
	第３回	環境問題の歴史、環境基本法制定の背景及び基本的考え方
	第４回	大気環境及び水質環境について、汚染を表す指標及び汚染の現状と原因及び対策
	第５回	循環型社会とは、廃棄物の排出量、処理方法、処理費用について
	第６回	廃棄物の減量化手法としての金銭経済的誘導手法、その他の環境保全の手法について
	第７回	地球温暖化の現状、原因及び被害の予測
	第８回	新しい価値観の提案
	第９回	地球温暖化の現状、海面上昇の原因と予測
	第 10 回	気候変動と地球の未来
	第 11 回	環境問題とエネルギー問題
	第 12 回	再生可能エネルギー①　太陽光発電と風力発電
	第 13 回	再生可能エネルギー②　地熱発電とバイオマス利用
	第 14 回	原子力発電をどうするか
	第 15 回	地球の未来はどうなるか

授業に対する予習・復習	予習：　次回講義資料を配布する	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし （プリントを配布）
参考文献	『人間・環境・地球』（北野大・及川紀久雄、共立出版）
注意事項	予習、復習をシッカリと行い、理解できない点、不明な点を質問により無くす努力をすること。できるだけ易しく講義を行うが、質問は遠慮せずにしてほしい。

科目名	情報機器操作	単位数	2	担当教員	金（きむ）　宰郁（じぇうく）
		授業形態	講義		

授業の内容	教育に関連する文書業務・情報交換・情報収集等は、コンピュータによりその多くが行われていると考えられます。本科目では、幼児教育を行う方法の上での技術として、情報機器を利用するには、どのような考え方でどのような情報機器を用いて行うことが最も適切なのかについて理解を図ります。
到達目標	１．情報分野の基本的なスキルであるコンピュータリテラシーを身につけ、コンピュータを使いこなすことができる。 ①ワープロソフト「Word」の習得により様々な文書作成ができる。 ②プレゼンテーションソフトの使い方を習得している。 ③情報処理検定及びワープロ検定試験への資格証取得に十分な能力を身につけている。

授業計画		
	第１回	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出
	第２回	Windows の基本操作①：OS，GUI など
	第３回	Windows の基本操作②：ファイル管理，種類，文書の保存・読込み，その他
	第４回	絵の作成の基礎：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出
	第５回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎①：文書形式，文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出
	第６回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎②：文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成および提出
	第７回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎③：均等割付・段組，縦書き文字などの関連課題の作成および提出
	第８回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎④：表作成と編集①の関連課題の作成および提出
	第９回	日本語ワープロソフト「Word」の応用①：表作成と編集②の関連課題の作成および提出
	第 10 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用②：クリップアート、ワードアートの関連課題作成、及び提出
	第 11 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用③：図形描画の関連課題作成、及び提出
	第 12 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用④：段組み、ドロップキャップ、ページ罫線の関連課題作成、及び提出
	第 13 回	プレゼンテーション「PowerPoint」①：発表の構成とスライド、オブジェクトの編集、その他
	第 14 回	プレゼンテーション「PowerPoint」②：発表の準備、その他
	第 15 回	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で１つの作品を作り、発表

授業に対する予習・復習		
	予習：　ワープロソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：　教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（４０％）、作品（２０％）、発表（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Word2013 全機能 Bible』（西上原裕明、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、最終作品、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。

科目名	情報機器操作	単位数	2	担当教員	えのもと　のりこ 榎本　功子
		授業形態	講義		

授業の内容	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、コンピューターのしくみ　コンピューター用語の解説　アプリケーションソフト（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフトなど）について解説し、パソコンの基本的な操作法を学ぶ。次いで、ワードによるさまざまな文書の作成法を習得する。
到達目標	１．ワードの機能を使って、さまざまな文書の作成ができる。

授業計画		
	第１回	コンピューターのしくみ　コンピューター用語の解説　アプリケーションソフトの解説（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフト）
	第２回	ワードの使い方 文字の入力、簡単な文章の作り方、整え方
	第３回	ワードによる文書作成①　文字の設定
	第４回	ワードによる文書作成②　ワードアート
	第５回	ワードによる文書作成③　ページ設定
	第６回	ワードによる文書作成④　ハガキの設定
	第７回	ワードによる文書作成⑤　表の作り方
	第８回	インターネットの使い方①「行き先を調べる」「路線を調べる」「地図を見る」
	第９回	インターネットの使い方②「保育に使える素材を探し、保存する」
	第 10 回	インターネットの使い方③　素材を使って文書を作成する
	第 11 回	メールの送受信とメールの書き方、写真の添付
	第 12 回	多くの人に一斉にメールを出す（メルマガ、お知らせメール）
	第 13 回	ウイルスの予防と対策
	第 14 回	クリスマスカードの作成
	第 15 回	ポスターを作る

授業に対する予習・復習		
	予習：　実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。授業に出席することで、特に予習の必要はない。	復習：　覚えたことを繰り返し復習することは、スキルアップにつながることなので、おすすめします。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （授業に合わせた課題を教師パソコンに表示）
参考文献	必要に応じて随時紹介
注意事項	授業に出席すること。

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	なかじま　なおき 中島　尚樹
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指します．基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、月の名前の由来など文化的な話題や英語の素朴な疑問などにも触れたいと思っています。
到達目標	１年間の学習を通して、英語で簡単なコミュニケーションができるようになること。具体的には、 １．BE 動詞の構文（現在と過去）を使える。 ２．一般動詞の構文（現在と過去）を使える。 ３．日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。

授業計画

第１回	授業説明	第 16 回	Unit 5　What's Wrong with Hitomi?
第２回	Pre-Unit 品詞と語順	第 17 回	文法：一般動詞の過去形（規則動詞）
第３回	文法：名詞と代名詞	第 18 回	文法：一般動詞の過去形（不規則動詞）
第４回	Unit 1　First Day of Class	第 19 回	文法：一般動詞の過去形（疑問文・否定文）
第５回	文法：Be 動詞の現在形	第 20 回	Unit 6　It Won't Hurt
第６回	文法：Be 動詞の過去形	第 21 回	文法：現在進行形と過去進行形
第７回	Unit 2　I love Bread!	第 22 回	Unit 8　Small Talk
第８回	文法：一般動詞の現在形（肯定文）	第 23 回	文法：未来の表現
第９回	文法：一般動詞の現在形（疑問文・否定文）	第 24 回	Unit 12　Shopping for Clothes
第 10 回	Unit 3　Pizza Time	第 25 回	Unit 9　Weight Down, Power Up!
第 11 回	Unit 4　Not Just a Baker	第 26 回	Unit 14　Date Night
第 12 回	Unit 7　I Feel Healthy Already!	第 27 回	文法：法助動詞
第 13 回	Unit 11　Hitomi wants a New Look	第 28 回	Unit 10　It's Nice … And
第 14 回	Unit 13　I'm Meeting a Friend	第 29 回	Unit 15　It's Party Time!
第 15 回	まとめ：be 動詞と一般動詞の現在形など（文法問題の練習と英作文）	第 30 回	まとめ：一般動詞の過去形，現在・過去進行形，未来表現など（文法問題の練習と英作文）

授業に対する予習・復習	予習：　テキストにＣＤが付いているので、家で聞いて事前に聞き取り問題をやってみることを勧めます。家でなら何度でもゆっくり聞き返すことができます。	復習：　授業で出てきた構文がすべて理解できたかどうか、また出てきた単語の意味がすべて分かるか、どうかを毎回確認すること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、課題（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『*English Aid*』（Robert Hickling・臼倉美里、金星堂）	
参考文献	なし	
注意事項	この授業は英語で発信できる（英文が作れる）ようになるための総合的な授業で、読解を主とした授業ではありません。理解するだけでなく、英語が書けて、話せるようになるためには、その課で学んだ構文を毎回確実に覚えていくことが最も重要です。少しずつでもいいので、テキストとプリントに出てくる単語や例文を毎回必ず覚えていってください。当然のことながら、試験の結果はそういった努力に大きく左右されます。	

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	すがま　ゆきお 須釜　幸男
		授業形態	演習		

授業の内容	「英語とコンピュータが出来れば食いっぱぐれない」という台詞が一昔前によく語られましたが、グローバル化時代に入って、それはより切実なものになってきました。これからはひとまず、英語に対する得意・不得意、好き・嫌いは脇に置いておくことにしましょう。この授業を通じて、皆さんが英語というものに関わり、親しみながら、そのイロハを体得していきましょう。
到達目標	１．英語圏と日本の間にある文化・マナーの違いを考え、会話をすることができる。 ２．自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすく英語で発信することができる。 ３．仕事に不可欠な TOEIC®では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身につけている。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第 16 回	後期ガイダンス
第２回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（基礎編） ：写真描写問題	第 17 回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（応用編） ：写真描写問題
第３回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（基礎編） ：応答問題	第 18 回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（応用編） ：応答問題
第４回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（基礎編） ：会話問題	第 19 回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（応用編） ：会話問題
第５回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（基礎編） ：説明文問題	第 20 回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（応用編） ：説明文問題
第６回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（基礎編） ：短文穴埋め問題	第 21 回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（応用編） ：短文穴埋め問題
第７回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（基礎編） ：長文穴埋め問題	第 22 回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（応用編） ：長文穴埋め問題
第８回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（基礎編） ：一つ/複数の文章	第 23 回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（応用編） ：一つ/複数の文章
第９回	上半期のまとめ	第 24 回	上半期のまとめ
第 10 回	時事英語 ：政治分野	第 25 回	時事英語 ：芸術分野
第 11 回	時事英語 ：経済分野	第 26 回	時事英語 ：スポーツ分野
第 12 回	時事英語 ：社会分野	第 27 回	時事英語 ：エンターテイメント（芸能）分野
第 13 回	時事英語 ：文化分野	第 28 回	時事英語 ：国際分野
第 14 回	下半期のまとめ	第 29 回	下半期のまとめ
第 15 回	前期授業全体のまとめ	第 30 回	後期授業全体のまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　前回の授業を復習、既習プリントのファイリング。	復習：　既習文法や語彙を確認・理解。 既習テーマに関する新聞や雑誌をチェック。 これまでの学習範囲との位置付け。 自分の社会観や時代感覚を形成・展開。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）　※単元の終了ごとに小テストを実施する。	
教科書	なし （毎回プリントや資料を配布）	
参考文献	なし	
注意事項		

科目名	英　語（2）	単位数	2	担当教員	すがま　ゆきお 須釜　幸男
		授業形態	演習		

授業の内容	英語（2）では、既習の英語（1）の基礎を土台にして、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんの専門の保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、時事問題、会話等から英語を学習していきます。受講に際しては英語が苦手だから、不得意だからとの心配は不要です。英語（2）は（1）よりも難易度の高い上級編という意味ではなく、英語で社会を広く学ぼうという意味の（2）です。
到達目標	1．英語圏と日本の間にある文化・マナーの違いを考え、会話をすることができる。 2．自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすく英語で発信することができる。 3．仕事に不可欠な TOEIC®では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身につけている。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第 16 回	後期ガイダンス
第２回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：欧州	第 17 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：欧州
第３回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：米国	第 18 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：米国
第４回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：日本	第 19 回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：日本
第５回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：欧州	第 20 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：欧州
第６回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：米国	第 21 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：米国
第７回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：日本	第 22 回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：日本
第８回	まとめ	第 23 回	まとめ
第９回	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（基礎編）	第 24 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：欧州
第 10 回	保育をめぐる海外事情を知る：米国（基礎編）	第 25 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：米国
第 11 回	保育をめぐる海外事情を知る：日本（基礎編）	第 26 回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：日本
第 12 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：喜怒哀楽の表現	第 27 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：喜怒哀楽の表現
第 13 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：家庭生活での表現	第 28 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：家庭生活での表現
第 14 回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：集団生活での表現	第 29 回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：集団生活での表現
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　・前回の授業を復習、・既習プリントのファイリング。	復習：　既習文法や語彙を確認・理解。 既習テーマに関する新聞や雑誌をチェック。 これまでの学習範囲との位置付け。 自分の社会観や時代感覚を形成・展開。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）　※単元の終了ごとに小テストを実施する。	
教科書	なし （毎回プリントや資料を配布）	
参考文献	なし	
注意事項	英語力は授業だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知るのも、立派な英語力向上です。英語が苦手な人は映画や旅行、食事、ファッション、海外事情といった側面からのアプローチをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の新しい情報を収集し、日本と海外の文化に違いに触れてみましょう。	

科目名	音楽（1）基礎音楽	単位数	2	担当教員	ひらしま　みほ 平島　美保
		授業形態	演習		

授業の内容	幼児教育者としての必要な基礎知識を学ぶと共に、こども達と一緒に歌うためのコードによる伴奏法を身に付ける。また、机上における学習だけでなく、「ダルクローズリトミック」という手法を用いながら、音楽の諸要素を体得する。
到達目標	１．音楽理論を学び、音楽をより深く理解し、自分の音楽作りに役立てることができる。 ２．和音やコードを習得し、理解している。 ３．コードを用いたこどもの歌の伴奏ができる。

授業計画

第１回	授業ガイダンス 音楽経験についてのアンケート	第 16 回	楽典：譜表、音部記号、変化記号など楽譜に関すること
第２回	拍子について① 拍のグループと１拍目への意識	第 17 回	音階について① 音名、及び音階の構成
第３回	拍子について② 指揮法	第 18 回	音階について② いろいろな長調の音階
第４回	拍子について③ こどものうたの指揮	第 19 回	和音について①：４種類の和音 「長３和音」「短３和音」「増３和音」「減３和音」
第５回	楽譜の読み方① 基本となる音符	第 20 回	和音について② ４種類の和音の構成について
第６回	楽譜の読み方② 休符について	第 21 回	コード、及びコードネームと構成音とその表記について
第７回	楽譜の読み方③ 基本となる音符とリズムパターン	第 22 回	コードを用いた伴奏法① コードをつかむ練習
第８回	楽譜の読み方④ 拍を分割した音符の形(拍の分割形)	第 23 回	コードを用いた伴奏法② セブンスコード、及び「C,G,G7 コード」の進行方法
第９回	楽譜の読み方⑤ 拍の分割形とそれを用いたリズムフレーズ	第 24 回	コードを用いた伴奏法③ 「C,G,G7 コード」によるこどもの歌へのコード付
第 10 回	楽譜の読み方⑥　拍の分割形とそれを用いたリズムフレーズと動きによる表現	第 25 回	コードを用いた伴奏法④　第 23 回目の内容を更に深める 「C,G,G7 コード」によるこどもの歌へのコード付
第 11 回	ダイナミクス（強弱）について	第 26 回	コードを用いた伴奏法⑤ 「C→F」「F→G7 」の進行方法
第 12 回	音楽形式「カノン（追いかけっこ・輪唱）」	第 27 回	コードを用いた伴奏法⑥　「C→F」「C→G7」「F→G7」によるこどもの歌へのコード付
第 13 回	前期のまとめ① リズムアンサンブルの準備　リズム譜の作成	第 28 回	コードを用いた伴奏法⑦　「C→F」「C→G7」「C→F→G7」によるこどもの歌へのコード付
第 14 回	前期のまとめ② 作成したリズムアンサンブルの練習	第 29 回	コードを用いた伴奏法⑧ 28 回目の内容を更に深める
第 15 回	前期のまとめ③ リズムアンサンブルの練習と発表	第 30 回	コードを用いたこどものの演奏発表

授業に対する予習・復習	予習：　特に指示がない限り、予習をする必要はありませんが、シラバスを参考にして、どのような内容を行うのかを確認して授業に臨んでください。	復習：　授業で行ったことは課題があってもなくても、必ず復習してください。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 発表（８０％）、授業態度（２０％）	
教科書	なし （必要に応じて資料を配布）	
参考文献	必要に応じて授業時に提示	
注意事項	１．授業は積み重ねによる内容で行います。授業内で把握できなかったことは、そのままにしないようにしましょう。質問は大歓迎です。 ２．授業では５線ノートを使用します。必ず準備して臨んでください。	

科目名	図画工作	単位数	2	担当教員	おぐち すぐる 小口 偉
		授業形態	演習		

授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について理解、関心を深める。
到達目標	保育所、幼稚園における造形表現活動の支援のための視点と方法を身につけ、子どもたちと豊かな触れ合いが出来る保育者となる基礎力が身についている。 １．子どもたちの表現活動の意義を理解している。 ２．年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容を理解し、適切な環境づくりをするための基礎を身につけている。 ３．子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。

授業計画

第１回	オリエンテーション 授業内容説明	第16回	表現について①「モチーフを探そう」 表現のきっかけとなる装置をつくる
第２回	素材体験①　紙について① 質感で遊ぶ	第17回	表現について②「具体化しよう」 テーマや想い（モチーフ）を形や色に置き換える
第３回	素材体験②　紙について② 空間を使って遊ぶ	第18回	表現について③「工夫しよう」 素材の扱いや形について自分なりに工夫する
第４回	素材体験③　クレヨン、パスについて	第19回	表現について④「発表会」 発表と鑑賞
第５回	素材体験④　粘土について	第20回	ポップアップカード① 試作から仕組みを理解する
第６回	道具体験①　ハサミについて	第21回	ポップアップカード② 本制作仕上げ
第７回	道具体験②　ステープラーについて	第22回	工作②　「まわる」をテーマとしたおもちゃ作り
第８回	テープ、のり、などの接着について	第23回	工作③　「風で遊ぶ」をテーマとしたおもちゃ作り
第９回	応用①　構成遊びについて① 色画用紙での構成遊び	第24回	仕掛けを用いた指導教材制作① 試作から仕組みを理解する
第10回	応用②　構成遊びについて② 与えられたきっかけから画面構成①　制作開始	第25回	仕掛けを用いた指導教材制作② 本制作開始
第11回	応用③　構成遊びについて③ 与えられたきっかけから画面構成②　制作仕上げ	第26回	仕掛けを用いた指導教材制作③ 本制作仕上げ
第12回	応用④　様々な技法遊び デカルコマニー／スクラッチ	第27回	紙粘土をつかって プレート制作
第13回	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	第28回	紙粘土をつかって プレートに着色
第14回	工作①　動かして遊ぶ「紙工作」	第29回	まとめ 振り返り、レポート作成
第15回	振り返り	第30回	正月遊び カルタ、たこづくり

授業に対する予習・復習	予習：　子どもの造形的表現に関心を向ける。身の回りの自然や造形物に関心を向ける。	復習：　授業中の制作物について振り返り、ねらいや制作手順に関することなどをノートにまとめる。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（４０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『保育園・幼稚園の造形あそび』（鮫島良一・馬場千晶、成美堂出版）	
参考文献	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社） 『造形と子ども　子どもの造形表現ドキュメント』（加藤裕之・鮫島良一・菅原順一、すずき出版）	
注意事項	１．出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ２．作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。（年間３５００円） ※スケッチブック、色画用紙、絵具、筆、パレット、紙粘土は上記代金の中から学校で一括購入します。	

科目名	図画工作	単位数	2	担当教員	市瀬（いちのせ）　恭子（たかこ）
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもたちの造形活動を理解し、支援するために必要な造形の基礎技能の習得を目的とする。
到達目標	１．造形活動を通して感性を磨き、創造活動への関心を深める。 ２．美しさや良さを大切にする気持ち、自発的に取り組む態度が身についている。 ３．子ども一人ひとりの表現をしっかりと受け止められる保育者になるための実践力が身についている。

授業計画

第１回	オリエンテーション （授業の趣旨説明、自己紹介カードの作成）	第 16 回	紙工作①　身近な紙で「切り絵」
第２回	「つくる」とは（講義）	第 17 回	紙工作②　紙の積み木
第３回	文字とデザイン　レタリングの基礎、活用	第 18 回	紙工作しりとり絵本①　文字と絵の構成
第４回	描く①　形のとらえ方　描画材料	第 19 回	紙工作しりとり絵本②　コラージュ
第５回	描く②　鉛筆デッサン	第 20 回	紙工作しりとり絵本③　製本
第６回	描く③　クレヨン画	第 21 回	季節の素材をつかって①　自然物のコラージュ
第７回	モダンテクニック①　クレヨンを使った技法	第 22 回	季節の素材をつかって②　森のアクセサリー
第８回	モダンテクニック②　絵具を使った技法	第 23 回	季節の素材をつかって③　木のモビール
第９回	技法のまとめ　活用方法	第 24 回	ポップアップカード①　基礎
第 10 回	色彩のしくみ　色の混色、色相環	第 25 回	ポップアップカード②　制作
第 11 回	絵具で描く　パウル、クレーの模写	第 26 回	ポップアップカード③　完成　評価
第 12 回	色を組み合わせる　コラージュ	第 27 回	８面体をつくる　ヒンメリ制作
第 13 回	形と向き合う　静物画	第 28 回	グループ制作①　壁面構成（企画、話し合い）
第 14 回	制作①　グラシン紙を使って	第 29 回	グループ制作②　壁面構成（制作）
第 15 回	制作②　トランスパレントペーパーを使って	第 30 回	グループ制作③　壁面構成（完成、評価）

授業に対する予習・復習	予習：　制作のイメージを組み立てる。 制作の材料、道具の準備。	復習：　授業で学んだことを、再び実践しながら 自分の知識、技術として身につける。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（３０％）、作品（３０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研会、圭文社）	
参考文献	『幼稚園教育要領、保育指針』（チャイルド社）	
注意事項	１．作品重視ではなく、美術が好きになれるよう、わかりやすく、楽しく、身近なものの不思議さ、おもしろさに気づく授業を行います。自発的に誠実に授業に取り組む態度を望みます。 ２．制作に使用する用具や材料費は個人負担です。 材料費　５００円（年間） 制作用具（スケッチブック、アクリル絵の具、筆、パレット） 【学校で一括購入する場合は約２,７００円】	

科目名	幼児体育	単位数	2	担当教員	茗井（めい）　香保里（かおり）
		授業形態	演習		

授業の内容	幼児期に、正しい動き方を身につけたり、運動することの楽しさを経験することは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させることはもとより、これからの超高齢社会を健康に生活するための基礎となる。それらをふまえ、本講義では、幼児の発育発達の特性と幼児の動きづくりと運動あそびの重要性を理解することを目的とする。
到達目標	１．様ざまな遊具の特性を知り、それらを活用した運動遊びが実践できる 。 ２．巧技台の特性を理解し正しい動き方を身につけている 。 ３．目的にあった運動遊びや身体表現活動を開発できる 。

授業計画

第１回	基本の運動	第 16 回	自分の体を知る
第２回	簡単なルールのある運動あそび	第 17 回	心と身体の解放
第３回	フープを使った運動あそび	第 18 回	「曲線」の身体表現
第４回	短縄を使った運動あそび	第 19 回	「直線」の身体表現
第５回	長縄を使った運動あそび	第 20 回	「曲線」+「直線」の身体表現
第６回	ボールを使った運動あそび	第 21 回	働く乗り物
第７回	生活用品を使った運動あそび	第 22 回	はらぺこあおむし
第８回	マットを使った運動あそび	第 23 回	ライフキャリア発達と健康
第９回	文献を使って運動遊びを調べる	第 24 回	「生涯健康」と運動遊び
第 10 回	簡単なルールのある運動あそびを創る	第 25 回	作品の創作① 動き
第 11 回	フープを使った運動あそびを創る 短縄を使った運動あそびを創る	第 26 回	作品の創作② 衣装
第 12 回	長縄を使った運動あそびを創る ボールを使った運動あそびを創る	第 27 回	作品の創作③ 音
第 13 回	マットを使った運動あそびを創る 生活用品を使った運動あそびを創る	第 28 回	作品を演じるとは、作品を観るとは
第 14 回	「生涯健康」と運動遊び	第 29 回	作品発表会
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　教科書を読む。	復習：　授業内容をノートにまとめる。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『生涯健康をめざした運動あそび』（茗井香保里、推敲舎）	
参考文献	『子どもの運動・表現あそび～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子他、大学図書出版）	
注意事項	１．出席重視。 ２．体操着を着用のこと。フード付上着、ジーンズパンツなどは避ける。肩にかかる髪は、結ぶこと。 ３．運動靴をはき、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。 ４．意欲、関心、はプラスポイントとする。	

科目名	幼児体育	単位数	2	担当教員	しおざき 塩崎　みづほ
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。
到達目標	１．子どもの発育発達段階に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 ２．運動遊びの指導法について理解している。 ３．幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。

授業計画

第１回	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	第 16 回	講義：運動遊びの実際
第２回	鬼ごっこについて考えよう	第 17 回	ボールを使った遊び
第３回	米袋を使った遊び	第 18 回	巧技台を使った遊び
第４回	フープを使った遊び	第 19 回	サーキット遊び
第５回	縄を使った遊び	第 20 回	身体表現遊びの指導法① －身体表現遊びの題材について－
第６回	マットを使った遊び	第 21 回	身体表現遊びの指導法② －言葉がけを工夫して実践しあおう－
第７回	身近なものを使った遊び	第 22 回	講義：運動遊びの指導について
第８回	身体表現遊び① －リズムにのって踊ろう－	第 23 回	講義：運動遊びの指導案作成
第９回	身体表現遊び② －シンメトリーの動きを体験しよう－	第 24 回	運動遊びの指導案に沿った指導法を考える
第 10 回	身体表現遊び③ －群の動き－	第 25 回	指導の実践①　マット遊び
第 11 回	身体表現遊び④ －ひと流れをつくろう－	第 26 回	指導の実践②　巧技台を使った遊び
第 12 回	身体表現遊び⑤ －小作品の創作－	第 27 回	指導の実践③　身体表現遊び
第 13 回	身体表現遊び⑥ －小作品の踊りこみをしよう－	第 28 回	指導の実践④　ボールを使った遊び
第 14 回	身体表現遊び⑦ －発表会－	第 29 回	指導の実践⑤　縄を使った遊び
第 15 回	発表会の振り返り 授業のまとめ	第 30 回	まとめ 幼児の運動遊びの指導における特徴について考える

授業に対する予習・復習	予習：　次回に備え、教科書の該当する箇所を熟読する。 ストレッチなどを日々の生活に取り入れ実践する。	復習：　本時行った活動内容をノートにまとめる。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（２０％）、作品（１０％）、発表（１０％）、実技（１０％）、授業態度（３０％）	
教科書	『子どもの運動・表現遊び～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子編、大学図書出版）	
参考文献	『保育の中の運動あそび』（石井美晴他編、萌文書林） 『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）	
注意事項	１．実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 ２．意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。	

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	味田（みた）　徳子（のりこ）
		授業形態	講義		

授業の内容	子どもの健康と保健の意義について学ぶ。 前期では、「健康や保健の概念」「発育・発達の特徴」「心の健康」「子どもの食生活と栄養」など体や心の基本的知識について習得する。 後期では「子どものかかりやすい病気」「感染症の予防」「子どもの事故」「保育環境」「保育者の健康」など、保育現場における具体的な事柄について学ぶ。
到達目標	１．乳幼児の発育・発達についての基礎知識を習得し、年齢に応じた客観的な評価ができる。 ２．子どもの病気について理解し、適切な対応ができる。 ３．発達段階に応じた事故が予防でき、また発生時の対応ができる。 ４．望ましい保育環境を整え、子どもおよび保育者の健康を守ることができる。

授業計画

第１回	授業オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義① 保育における子どもの保健	第16回	子どもの健康状態の把握
第２回	子どもの健康と保健の意義② 健康の概念と小児保健統計	第17回	子どもかかりやすい病気① ウイルス性感染症・細菌性感染症
第３回	子どもの発育・発達	第18回	子どもかかりやすい病気② 呼吸器、消化器の病気
第４回	発育の評価	第19回	子どもかかりやすい病気③ 皮膚、目の病気
第５回	運動機能の発達	第20回	子どもかかりやすい病気④ 泌尿器の病気
第６回	精神機能の発達①　言葉	第21回	子どもかかりやすい病気⑤ 脳、神経の病気
第７回	精神機能の発達②　情緒・社会性	第22回	子どもかかりやすい病気⑥ 循環器の病気
第８回	生理機能の発達	第23回	子どもかかりやすい病気⑦ アレルギー疾患
第９回	感覚機能の発達	第24回	子どもかかりやすい病気⑧ その他の病気（寄生虫、川崎病、先天異常等）
第10回	子どもの心の健康	第25回	感染症の予防、予防接種
第11回	特別な配慮が必要な子どもたち①　慢性疾患	第26回	学校感染症、健康診断
第12回	特別な配慮が必要な子どもたち②　児童虐待	第27回	子どもの事故① 子どもに多い事故・園で起こりやすい事故
第13回	特別な配慮が必要な子どもたち③　発達障害	第28回	子どもの事故② 子どもに多いケガ、症状の対処
第14回	子どもの食と栄養①　乳汁・離乳食	第29回	保育環境
第15回	子どもの食と栄養②　幼児食　食中毒 前期総まとめ・復習	第30回	健やかな育ち、保育者の健康管理 後期総まとめ・復習

授業に対する予習・復習	予習：　次回の内容について、教科書・当日使用するプリント（前回配布済）に目を通しておく。	復習：　授業終了前に、講義内容の「振り返り」を行い、定着を図る。また各人で再度プリントを見直す。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（８０％）、課題（１０％）、授業態度（１０％）
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著、創成社）
参考文献	『よくわかる子どもの保健〔第３版〕』（竹内義博・大矢紀昭編、ミネルヴァ書房） 『図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ』（加藤忠明・岩田力編、建帛社）
注意事項	１．遅刻者はクラス、番号、氏名、遅刻理由を述べて着席して下さい。 ２．前回欠席者は、前回配布プリントの有無を確認し、当日授業開始前に申し出て受領して下さい。

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	笹（ささ）　かおり
		授業形態	講義		

授業の内容	子どもの保健は子どもの心身の健康の保持・増進並びに安全の確保を図ることを目的とする。本科目では、保育者に必要とされる子どもの保健の基礎的知識を習得する。そのため前期では、乳幼児期の成長・発達および心と身体の特性、食と栄養について理解を深める。また後期では、前期で学んだ知識を基礎とし、子どもがかかりやすい病気、感染予防、園でおこりやすい事故、母子保健等について学ぶ。
到達目標	１．子どもの心身の発育・発達の特徴を知り、適切な時期に適切な対応をすることの必要性を理解している。 ２．子どもをとりまく環境について知り、子どもの育ちを多方面から考える視点をもつことができる。 ３．心身の健康や栄養について知り保育者として考える力、判断する力、支援する力を身につけている。 ４．子どもによく見られる病気の予防・症状・治療について理解している。 ５．子どもの事故の現状を理解し、発達段階に応じた事故防止について理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス：子どもの権利 子どもの健康と保健の意義、小児保健の動向	第16回	子どもの病気と保育① 子どもの健康状態の把握、体調のよくない子どもへの対応
第２回	我が国の子どもを取り巻く環境	第17回	子どもの病気と保育②　子どものかかりやすい病気 感染症
第３回	子どもの発育・発達① わたしたちの体、身体発育	第18回	子どもの病気と保育③　子どものかかりやすい病気 呼吸器系・目鼻のど
第４回	子どもの発育・発達② 運動機能の発達、精神機能の発達	第19回	子どもの病気と保育④　子どものかかりやすい病気 消化器系・皮膚の病気
第５回	子どもの発育・発達③ 生理機能の発達、感覚器の発達	第20回	子どもの病気と保育⑤　子どものかかりやすい病気 眼・泌尿器系、脳・神経の病気
第６回	子どもの発育・発達④ 胎生期・０～６か月の発育・発達	第21回	子どもの病気と保育⑥　子どものかかりやすい病気 循環器の病気、アレルギー疾患
第７回	子どもの発育・発達⑤ ７～１２か月	第22回	子どもの病気と保育⑦　子どものかかりやすい病気 アレルギー疾患
第８回	子どもの発育・発達⑥ １～２歳の発育・発達	第23回	子どもの病気と保育⑧　子どものかかりやすい病気 その他の病気、先天異常
第９回	子どもの発育・発達⑦ ３～５歳の発育・発達	第24回	子どもの病気と保育⑨　子どものかかりやすい病気 感染症の予防
第10回	子どもの心の健康① 園生活と心の健康、特別な配慮が必要な子どもたち	第25回	子どもの病気と保育⑩　子どものかかりやすい病気 感染症の予防、健康診断
第11回	子どもの心の健康② 特別な配慮が必要な子どもたち	第26回	子どもの事故① 子どもに多い事故、園でおきやすい事故
第12回	発達障害の気づきと理解 自閉スペクトラム症、学習障害、ＡＤＨＤ、自閉症	第27回	子どもの事故② 園でおきやすい事故とその対策
第13回	子どもの食と栄養 乳汁栄養、離乳食、幼児食、食中毒	第28回	子どもに多いケガ、症状等の対処
第14回	小児の生活習慣病	第29回	保育環境
第15回	中間テスト、前期のまとめ、復習	第30回	子どもの保健と保育 まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業の前に必ずテキストを読んでおく。 課題について必ず調べておく。	復習：　授業の後は習った箇所の振り返りをする。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（８０％）、レポート（１０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著、創成社）	
参考文献	授業の中で適宜紹介または資料を配布する。	
注意事項	１．子どもの保健に関するニュースなどの情報に関心をもっておく。 ２．学習の理解を深めるため、視聴覚教材に関心をもって視聴する。	

科目名	社会福祉	単位数	2	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
		授業形態	講義		

授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。
到達目標	１．保育と社会福祉の関係を理解している。 ２．わが国の社会福祉の制度を理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
	第２回	保育と社会福祉（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題）
	第３回	社会福祉の概念①（社会福祉の意味、定義）
	第４回	社会福祉の概念②（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）
	第５回	社会保障の概念と体系（我が国における社会保障の概念）
	第６回	社会保険①（社会保険制度の概要）
	第７回	社会保険②（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）
	第８回	公的扶助①（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）
	第９回	公的扶助②（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）
	第 10 回	高齢者福祉　※中間レポート提出
	第 11 回	障害者福祉
	第 12 回	相談援助の意味と方法①（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則､）
	第 13 回	相談援助の意味と方法②（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）
	第 14 回	小テスト、ＶＴＲ（生活保護）、感想文
	第 15 回	小テスト返却及びまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習・復習シートをはじめに配布します。それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等)。	復習：　授業で習った内容の復習（シートへの記入)。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験〈小テスト〉（４０％)、レポート（３５％)、課題（１５％)、授業態度（１０％）
教科書	『保育と社会福祉　第２版』(橋本好市・宮田徹編集、(株）みらい)
参考文献	適宜紹介
注意事項	１．新聞やニュースなどを通じて社会福祉に関心を持つこと。 ２．教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと。

科目名	社会福祉	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
		授業形態	講義		

授業の内容	社会の変容とニーズの動向によって、全ての社会福祉制度は日々刻々と変化し続けている。このことは保育士としての待遇面から処遇上の技術的な面に至るまで、業務に多少に関わらず影響を与える。このため福祉の実践者としての必要な幅広い社会福祉の歴史から、各分野の現状に至るまでを学習していく。
到達目標	１．今日までの社会福祉の変遷や社会政策の動向を理解している。 ２．保育士として必要な、幅広い社会福祉の基礎知識を習得している。 ３．様々な福祉分野を知ることで支援者としての心構えを習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション～法律や条文の位置づけや読み方について学ぶ 条約・法律・施行規則・要綱・条例など
第２回	「福祉」とは何か？ 「福祉」の持つ意味について学ぶ
第３回	社会福祉の歴史と変遷について学ぶ 福祉の歴史は経済学の歴史　福祉政策の変遷について学ぶ
第４回	社会福祉基礎構造改革以降の福祉について学ぶ 措置制度と利用契約制度について学ぶ
第５回	社会福祉の法体系 社会福祉法を基礎とした現在の法体系について学ぶ
第６回	公的扶助・社会保障制度 生活保護制度、医療保険制度について学ぶ
第７回	障害者福祉① 「障害」について　ノーマライゼーションやリハビリテーションついて学ぶ
第８回	社会福祉の概念と全体のフレームについて整理する 中間まとめ　理解度テスト
第９回	障害者福祉② 身体障害・知的障害などについて学ぶ
第 10 回	障害者福祉③ 精神障害について学ぶ　「疾病」と「障害」の狭間で
第 11 回	女性への福祉的支援 ジェンダーについて　また DV 相談とその支援について学ぶ
第 12 回	高齢者福祉 沿革。年金制度と介護保険制度について学ぶ
第 13 回	社会福祉の援助と方法について① ソーシャルワーク・ケースワーク・グループワークなど
第 14 回	社会福祉の援助と方法について学ぶ② ストレングスモデル・エンパワメントなど
第 15 回	「社会福祉」全体と分野ごとの概要や課題について整理する まとめと復習チェック　理解度テスト

授業に対する予習・復習	予習：　ニュースなど福祉に関する社会問題について日頃から関心を持って情報収集してください。	復習：　配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（４０％）、レポート（２０％）、授業態度（４０％）
教科書	なし
参考文献	必要に応じ適宜紹介
注意事項	１．評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。 ２．学習範囲が幅広く、事例など交えてできるだけわかりやすく説明したいと思いますが、理解が難しいところもあるかと思いますので、不明な点は遠慮なく質問してください。福祉全般に関心を持つとともに授業マナーを守り積極的な受講を期待します。

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
		授業形態	講義		

授業の内容	児童家庭福祉の歴史的変遷と現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、児童家庭福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障害のある児童の対応などをはじめとする児童家庭福祉の現状と課題について理解し、特に児童家庭福祉と保育の関連性や児童の権利擁護などについて理解を深める。
到達目標	１．児童に関する法や施設など基本的なことを理解している。 ２．児童をとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋について理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
	第２回	児童家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）
	第３回	児童家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的内容）
	第４回	児童に関する権利思想の流れ
	第５回	児童家庭福祉の歴史①（明治期）
	第６回	児童家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）
	第７回	ＶＴＲ（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文
	第８回	児童家庭福祉専門職としての保育士
	第９回	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）
	第 10 回	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）　※中間レポート提出
	第 11 回	児童家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）
	第 12 回	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）
	第 13 回	児童虐待②（児童虐待の実際）
	第 14 回	小テスト、ＶＴＲ（子どもの貧困）、感想文
	第 15 回	小テスト返却及びまとめ（これからの児童家庭福祉）

授業に対する予習・復習		
	予習：　予習・復習シートをはじめに配布します。それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）。	復習：　授業で習った内容の復習（シートへの記入）

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験〈小テスト〉（４０％）、レポート（３５％）、課題（１５％）、授業態度（１０％）
教科書	『新　保育ライブラリ　児童家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房）
参考文献	『最新保育資料集 2017』（ミネルヴァ書房）
注意事項	１．普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して児童家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。 ２．教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと。

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
		授業形態	講義		

授業の内容	子どもを取り巻く環境の変遷と現在の児童家庭福祉について、幅広い観点から学習していく。保育士として必要な児童家庭福祉全般にわたる知識の習得を目指す。特に地域での子育て支援や保育士の役割などを時に事例を交えながら重点的に学んでいく。
到達目標	１．児童家庭福祉の歴史と変遷について理解している。 ２．児童を取り巻く課題と現状を知り、今後の児童家庭福祉のあり方について理解をしている。 ３．地域における支援者としての保育士の役割について理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション～支援者のあり方について 子どもと向き合うことの意味について理解する
第２回	児童家庭福祉の歴史① 子ども観の変遷について学ぶ　主にイギリスと日本の児童福祉
第３回	児童家庭福祉の歴史② 戦後の日本の家庭児童福祉の変遷について学ぶ
第４回	児童家庭福祉の歴史③ 社会福祉構造改革と少子高齢化などによる児童家庭福祉政策の変化を学習する
第５回	社会的養護の仕組みについて学ぶ① 児童相談所と措置制度について理解する
第６回	社会的養護の仕組みについて学ぶ② 児童福祉施設・里親制度と親権について理解する
第７回	現在の児童家庭福祉を支える関係機関 母子保健・児童福祉・少年法など各法の設置機関について学ぶ
第８回	児童家庭福祉の変遷と扱うフレームの変化について 中間まとめ　理解度チェックとレポート
第９回	障害のある子どもとその支援について 知的障害や発達障害など　集団になじめない子の対応について学ぶ
第 10 回	児童虐待の構造と地域での支援について 虐待予防と早期発見・早期支援・多機関間連携について学ぶ
第 11 回	地域での子育て支援について 乳幼児全戸訪問事業・養育支援事業・児童家庭支援センターなど「密室育児」解消のための活動について学ぶ
第 12 回	保育所について 保育所の変遷　保育の現状と課題について学ぶ
第 13 回	子どもの権利擁護について 子どもの権利条約について学ぶ　施設内虐待・自立支援・自らの生い立ちについて知る権利など
第 14 回	児童家庭福祉に携わる専門職種について 児童福祉司・児童心理士・保健師・助産師・PT・OT・ST など
第 15 回	改めて保育士として子どもと向き合うスタンスについて整理する まとめ　理解度チェックとレポート

授業に対する予習・復習	予習：　ニュース等において特に児童に関わる社会問題（少子化対策・児童虐待等）が取り上げられた際は日頃から関心を持って目を通しておいてください。	復習：　配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降で構わないので質問してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（４０％）、レポート（２０％）、授業態度（４０％）
教科書	なし
参考文献	適宜紹介
注意事項	１．評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。 ２．保育士として必ず必要となる知識・情報が含まれていますので、常に問題意識を持って授業マナーを守り、積極的な受講を期待します。事例など交えてできるだけわかりやすく説明したいと思いますが、不明な点は遠慮なく質問してください。

科目名	音楽（1）ピアノ	単位数	2	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、保育現場で求められているピアノの演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）、歌唱・伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき６名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数はクラス授業でピアノ演奏に必要となる楽典やソルフェージュおよび保育現場で使用されているこどものうたについて学び、45 分で交代する。
到達目標	１．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を習得している。 ２．実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ３．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕	第 16 回	臨時記号と半音階・季節のうた（春）弾き歌い① 教本　No.68~69
第２回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本　No.1~8	第 17 回	16 分音符を用いたリズム・季節のうた（春）弾き歌い② 教本　No.70~72
第３回	分散和音の伴奏形② 教本　No.9~16	第 18 回	イ短調の主要三和音・季節のうた（春）弾き歌い③ 教本　No.73~76
第４回	分散和音の伴奏形③・４分音符と８分音符 教本　No.17~24	第 19 回	6 度・3 度の重音・季節のうた（夏）弾き歌い① 教本　No.77~78
第５回	ハ長調の下属和音 教本　No.25~26	第 20 回	3 連符・季節のうた（夏）弾き歌い② 教本　No.79~80
第６回	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本　No.27~32	第 21 回	ヘ長調よりハ長調への転調・季節のうた（夏）弾き歌い③ 教本　No.81
第７回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本　No.33~38	第 22 回	3 度の重音と 8 度の跳躍・季節のうた（秋）弾き歌い① 教本　No.82
第８回	いろいろな伴奏形 教本　No.39~42	第 23 回	弱起の曲・季節のうた（秋）弾き歌い② 教本　No.83~84
第９回	高い音の練習 教本　No.43~46	第 24 回	ニ長調とニ短調の主要三和音・季節のうた（秋）弾き歌い③ 教本　No.85~86
第 10 回	3/8 拍子と 6/8 拍子・生活のうたの弾き歌い① 教本　No.47~48	第 25 回	装飾音・季節のうた（冬）弾き歌い① 教本　No.87~90
第 11 回	付点 4 分音符を用いたリズム 生活のうたの弾き歌い②　教本　No.49~54	第 26 回	複付点音符・季節のうた（冬）弾き歌い② 教本　No.91
第 12 回	ハ長調の音階、生活のうたの弾き歌い③ 教本　No.55~58	第 27 回	季節のうた（冬）弾き歌い③ 教本　No.~92～94
第 13 回	ヘ長調の音階・生活のうたの弾き歌い④ 教本　No.59~61	第 28 回	マーチ、その他① 教本　No.~95～98
第 14 回	ト長調の音階・生活のうたの弾き歌い⑤ 教本　No.62~67	第 29 回	マーチ、その他② 教本　No.~99～102
第 15 回	これまでの授業のまとめと発表	第 30 回	マーチ、その他③ 教本　No.~103～107

授業に対する予習・復習	予習：　限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題を中心に十分に練習をしたうえで受講する。	復習：
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 課題（１０％）、実技（６０％）、授業態度（３０％）	
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『簡易伴奏による　実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）	
参考文献	なし	
注意事項		

科目名	音楽（2）ピアノ	単位数	2	担当教員	鹿戸（しかと） 一範（かずのり） 他
		授業形態	演習		

授業の内容	音楽（1）ピアノで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を習得する。教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学び、各クラスを担当する約４名の教員より指導を受ける。
到達目標	１．音楽（1）ピアノで身につけた知識、演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	季節のうた　9 月① 「とんぼのめがね」「つき」他
第２回	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	第 17 回	季節のうた　9 月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他
第３回	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	第 18 回	季節のうた　10 月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他
第４回	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」他	第 19 回	季節のうた　10 月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他
第５回	季節のうた　4 月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	第 20 回	季節のうた　11 月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他
第６回	季節のうた　4 月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	第 21 回	季節のうた　11 月② 「夕やけこやけ」「たきび」他
第７回	季節のうた　5 月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他	第 22 回	季節のうた　12 月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他
第８回	季節のうた　5 月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	第 23 回	季節のうた　12 月② 「ジングルベル」他
第９回	季節のうた　6 月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	第 24 回	季節のうた　1 月① 「お正月」「雪」他
第 10 回	季節のうた　6 月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	第 25 回	季節のうた　1 月② 「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他
第 11 回	季節のうた　7・8 月① 「たなばたさま」「うみ」他	第 26 回	季節のうた　2 月① 「まめまき」他
第 12 回	季節のうた　7・8 月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	第 27 回	季節のうた　2 月② 「春がきた」「どこかで春が」他
第 13 回	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	第 28 回	季節のうた　3 月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他
第 14 回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	第 29 回	季節のうた　3 月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」
第 15 回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他	第 30 回	コードネームを用いた伴奏づけ

授業に対する予習・復習	予習：　毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自２～３曲を選択し練習しておく。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 発表（３０％）実技（４０％）、授業態度（３０％）
教科書	『簡易伴奏による　実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）
参考文献	必要に応じてプリントを配布
注意事項	

科目名	国語教育	単位数	2	担当教員	柳井（やない）　まどか
		授業形態	講義		

授業の内容	この授業では、将来保育者として国語教育に携わる上で必要な「読解力」や「文章表現力」、「話す力・聞く力」を育成する。具体的には、敬語の使い方、手紙の書き方等の基本ルールを確認した後、論理的思考力・表現力をレポートの書き方を通して習得する。さらに、グループディスカッション等を通して、コミュニケーション能力を、向上させていく。
到達目標	１．敬語の使い方、手紙の書き方等に関する知識を理解し、実践的な活用ができる。 ２．与えられた文章を正確に読み取り、短時間で的確に要約できる。 ３．段落の役割を理解し、構成を立て、論理的な文章を作成することができる。 ４．話し合いの場で、論理的かつ簡潔に自分の意見を述べ、他の参加者と協力して議論を進めることができる。

授業計画		
	第１回	言葉とコミュニケーション：　保育者として必要なコミュニケーション能力とは何か
	第２回	敬語の種類と使い方①：　敬語の基本ルール
	第３回	敬語の種類と使い方②：　尊敬語演習
	第４回	敬語の種類と使い方③：　謙譲語演習
	第５回	敬語の種類と使い方④：　応用編　―　ビジネス敬語　―
	第６回	書簡文の書き方①：　書簡文の基本ルール
	第７回	書簡文の書き方②：　書簡文演習
	第８回	論理的文章の書き方①：　論理的文章の構造を理解する
	第９回	論理的文章の書き方②：　文章の的確な要約
	第 10 回	論理的文章の書き方③：　構成の立て方と段落の役割
	第 11 回	論理的文章の書き方④：　レポートの書き方
	第 12 回	推敲の仕方と相互批評：　日本語の正しい使い方
	第 13 回	ディスカッション①：　様々なディスカッションの目的と方法、意見と根拠の述べ方
	第 14 回	ディスカッション②：　インバスケット方式演習
	第 15 回	国語教育まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　具体的な予習課題については、授業時に指示する。	復習：　授業で学んだ内容を確認し、指示された提出課題に取り組むこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （必要に応じてプリントを配布）
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。
注意事項	１．語彙力・漢字力向上のため、毎回小テストを実施するが、間違えた箇所を必ず確認すること。 ２．成績評価の「授業態度」には、ディスカッション等での貢献度を含む。

科目名	数量教育	単位数	2	担当教員	なかむら よういち　ほしの おさむ 中村 陽一・星野 治
		授業形態	講義		

授業の内容	幼児の数に対する感覚は日常生活の体験の中から養われる。本講では、そのための環境構成と保育者の援助について考える。また、小学校算数科の概要と、幼児教育との連続性についても学ぶ。さらに、身の回りのあらゆる事象を「数」や「量」の観点から見つめ直すことを通して、「数」や「量」の意味するものや、「数」や「量」の取り扱われかたを再確認する。
到達目標	１．幼児が数的感覚を身につけるための適切な環境設定について、自分の考えを述べることができる。 ２．小学校算数科の概要と幼児教育との学び連続性を理解している。 ３．私たちが幼少時から慣れ親しんできた「数」や「量」が、私たち自身の社会感覚の形成過程における重要な鍵の一つとなっていることを、各人なりに理解している。

授業計画		
	第１回	ガイダンス（授業の全体計画、成績評価の方法などについて説明）
	第２回	保育内容と数量教育－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」における数量教育の位置づけ
	第３回	子どもと数量理解－子どもは数をどのように覚えるか、子どもが生活で出会う数と種類
	第４回	子どもの生活と遊びのなかの数－3.4.5 歳児の事例
	第５回	小学校算数科の目標と内容①－第 1.2.3 学年
	第６回	小学校算数科の目標と内容②－第 4.5.6 学年
	第７回	子どもの学びの連続性-幼児の数量教育と小学校算数科教育の連続性について
	第８回	授業前半の振り返りとまとめ
	第９回	今までに学んだ算数・数学の振り返り（問題演習）①－“休眠状態の頭脳”に活を入れる
	第 10 回	文芸作品の中の数・量①－画像作品（絵本など）の鑑賞
	第 11 回	数・量に関する先人の知恵－数の不思議な性質、アナログ時計にまつわる特殊な時刻、パラドックス、その他
	第 12 回	文芸作品の中の数・量②－画像作品（映画など）の鑑賞
	第 13 回	今までに学んだ算数・数学の振り返り（問題演習）②－“子どもの質問から逃げない大人”を目指す
	第 14 回	文芸作品の中の数・量③－文章作品の鑑賞
	第 15 回	授業全体の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　授業中に示す重要事項を中心に復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本) 』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『小学校学習指導要領』（文部科学省、東京書籍）
参考文献	必要に応じて紹介 他の授業で指定された教科書や参考文献を、この授業でも利用することがある。
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科目名	数量教育	単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
		授業形態	講義		

授業の内容	この授業では、いわゆる算数・数学の授業（与えられた問題に対する解答の作成）とは異なり、算数・数学の教育方法のありかたを考える。 身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを考察する。
到達目標	１．私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては成り立たないことを確認している。 ２．幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを理解している。 ３．幼稚園児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えられる。

授業計画		
	第１回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。
	第２回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。
	第３回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。
	第４回	数量と図形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。
	第５回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。
	第６回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。
	第７回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”の意味を概観する。
	第８回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観する。
	第９回	文芸作品の中の数・量・形① “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。
	第 10 回	文芸作品の中の数・量・形② “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。
	第 11 回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。
	第 12 回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。
	第 13 回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”の面白さを概観する。
	第 14 回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。
	第 15 回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。

授業に対する予習・復習		
	予習： 予習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。	復習： 復習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（〇）する／（ ）しない 筆記試験（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	必要に応じて随時指定 また、プリントを随時配布
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（文部科学省）、その他必要に応じて随時紹介する。
注意事項	１．他の授業で使用する教科書や参考文献を、この授業でも使用する場合がある。 ２．この授業で取り扱う話題（問題）は、いわゆる算数・数学の問題とは異なり、解答が一つだけであるとは限らない。また、個々の話題の内容を理解するには、幅広い背景知識が求められる。“自分自身ならばこう考える”という能動的な態度で、授業に参加してほしい。

科目名	子どもの食と栄養	単位数	2	担当教員	ひらやまもとこ　ほりみち 平山素子・堀美稚
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している。 ２．月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている。 ３．自分自身の望ましい食生活の構築に取り組むことができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション、調理室の使い方	第 16 回	調理実習・・・離乳期④（調理実習）
第２回	子どもの発育・発達と栄養	第 17 回	保育現場における食事を考える
第３回	授乳期の栄養①　母乳栄養	第 18 回	幼児期の栄養①　成長と食事・栄養について
第４回	授乳期の栄養②　人工栄養	第 19 回	幼児期の栄養②　保育士・保護者の悩みを通して考える
第５回	調理実習・・・授乳期①（デモンストレーション）	第 20 回	児童福祉施設の食事と栄養
第６回	調理実習・・・授乳期②（調理実習）	第 21 回	調理実習・・・幼児食（弁当）①（デモンストレーション）
第７回	離乳の必要性について	第 22 回	調理実習・・・幼児食（弁当）②（調理実習）
第８回	離乳期の栄養①（5,6 か月頃）	第 23 回	体調不良時の食事と栄養
第９回	離乳期の栄養②（7,8 か月頃）	第 24 回	障害児の食事と栄養
第 10 回	食物アレルギーについて	第 25 回	調理実習・・・幼児食（行事食）①（デモンストレーション）
第 11 回	調理実習・・・離乳期①（デモンストレーション）	第 26 回	調理実習・・・幼児食（行事食）②（調理実習）
第 12 回	調理実習・・・離乳期②（調理実習）	第 27 回	学童期の食事と栄養
第 13 回	離乳期の栄養③（9~11 か月頃）	第 28 回	妊娠・授乳期の食事と栄養
第 14 回	離乳期の栄養④（12~18 か月頃）	第 29 回	食事のマナー・箸の使い方等について
第 15 回	調理実習・・・離乳期③（デモンストレーション）	第 30 回	食べることの意義と栄養・食品の知識

授業に対する予習・復習	予習：　教科書に目を通す。	復習：　調理実習毎に以下をレポート作成し提出する。 ・調理実習の結果・考察をまとめる ・講義内容をまとめる ・テーマについて調べる
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（６０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『改訂 子どもの食と栄養』（岡﨑光子 編、光生館）	
参考文献	『新版 子どもの食生活－栄養・食育・保育－』（上田玲子 編、ななみ書房）	
注意事項	授業を通して、自分自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。	

科目名	食教育論	単位数	2	担当教員	ひらやま もとこ 平山 素子
		授業形態	講義		

授業の内容	保育園、幼稚園において積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、子ども達の食生活を健康的に演出できるかどうかは、大人の意識にかかっている。 子ども達に基本的な食知識を伝え、様々な体験保育を行うための技術を身につけることを目的とする。加えて、保護者へのアプローチの方法を学ぶ。
到達目標	１．子どもを取り巻く食を含めた生活環境を把握している。 ２．子どもに、食の知識を伝える技術、実践するための技能を獲得する。 ３．保護者に食の重要性を伝え、実践を促すことができる。

授業計画		
	第１回	食教育の目的と必要性
	第２回	食教育の方法
	第３回	小児期の食をめぐる問題を考える①　食物アレルギー
	第４回	小児期の食をめぐる問題を考える②　欠食
	第５回	小児期の食をめぐる問題を考える③　孤食
	第６回	小児期の食をめぐる問題を考える④　食習慣
	第７回	小児期の食をめぐる問題を考える⑤　歯磨きとむし歯
	第８回	小児期の食をめぐる問題を考える⑥　咀しゃく
	第９回	子どもの発達に即した食教育を考える①　食のマナー
	第 10 回	子どもの発達に即した食教育を考える②　食と栄養の知識
	第 11 回	子どもの発達に即した食教育を考える③　偏食
	第 12 回	子どもの発達に即した食教育を考える④　調理保育
	第 13 回	保護者への啓発の方法
	第 14 回	媒体作成－給食便り
	第 15 回	工場見学 または 調理実習

授業に対する予習・復習	予習：　前もって授業内容を予告するので、テーマについて調べ、自分の考えをまとめておく。	復習：　課題（給食便り作成）に向けて、授業内容について考察し、資料を集める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	なし
参考文献	『子どもの食事』（根岸宏邦著、中央公論新社）
注意事項	授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	にしやま 西山　みちよ
		授業形態	演習		

授業の内容	「子どもの保健Ⅰ」では、子どもの心と身体の健康を保持・増進するための知識を理論的に学んだ。「子どもの保健Ⅱ」では、その習得した知識を保育現場において適切に実践できるように演習をとおし技術を習得していく。個々の乳幼児の成長、発育段階に応じた適切な保育・養護・態度を学び応用的な活用ができる能力と技術を養う。また、乳幼児の健康と安全のために保護者との関係はどうあるべきか、地域の保健、福祉、医療機関との連携の必要性を学ぶ。
到達目標	１．子どもの心身の健康の観察、評価の方法を理解し活用できる。 ２．子どもの健康の保持増進、成長、発達のための保育、養護の必要性が理解、実践できる。 ３．子どもの健康、安全のために必要な関連機関との連携について理解している。 ４．保育者として保護者との適切な関係について理解している。 ５、乳幼児教育に対する自分の姿勢を再認識できている。

授業計画		
	第１回	子どもの保健に関する演習について、演習を行う際の心構え、 子どもの養護と教育①　だっこ・おんぶ・寝かせ方
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価①　計測方法
	第３回	子どもの発育・発達の観察と評価②　健康観察　バイタルサイン測定
	第４回	子どもの発育・発達の観察と評価③　健康診断
	第５回	子どもの養護と教育②　おむつ
	第６回	子どもの養護と教育③　衣類の着脱　身体の清潔
	第７回	子どもの養護と教育④　調乳と授乳　離乳食
	第８回	子どもの養護と教育⑤　手洗い・うがい　歯磨き
	第９回	子どもの体調不良などへの対応①　主な症状への対応　感染症対策
	第 10 回	子どもの体調不良などへの対応②　主な症状への対応　アレルギー
	第 11 回	子どもの体調不良などへの対応③　主な症状への対応　与薬
	第 12 回	個別の配慮を必要とする子どもへの対応 身体疾患　発達障害　知的障害　虐待
	第 13 回	保育における応急手当　医療機関との連携
	第 14 回	望ましい保育環境と安全対策 安全管理　防災対策
	第 15 回	子どもの心とからだの健康づくり　保健活動 保護者への健康教育と支援

授業に対する予習・復習	予習：　授業の前後にテキストを読んでおくこと。	復習：　授業の後は習った箇所の振り返りをしておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（４０％）、実技（４０％）、授業態度（２０％）　※授業内で小テストをおこなう。
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著、創成社）
参考文献	授業の中で適時紹介
注意事項	グループ演習のため、チームワークを大切に協力し合うこと。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	こいけ じゅんこ 小池　純子
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について、『子どもの保健Ⅰ』で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。 だっこ・おむつ替え等の養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容、心の問題や保護者への精神的サポートについて、演習を通して理解を深める。
到達目標	１．子どもの心と身体の健康・増進するために必要な知識を理解している。 ２．演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。 ３．健康上の配慮が必要な子どもへの対応、保護者へのサポート方法を習得している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 演習に臨む姿勢 子どもの発育・発達の観察と評価①　発育・発達
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価②　身体計測
	第３回	子どもの健康観察と健康管理
	第４回	子どもの養護と教育①　抱っこ・おんぶ・排泄
	第５回	子どもの養護と教育②　清潔
	第６回	子どもの養護と教育③　沐浴・衣類の着脱・おむつ交換
	第７回	子どもの養護と教育④　栄養
	第８回	子どもの生活習慣
	第９回	体調不良の子どもへの対応①　発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛
	第 10 回	体調不良の子どもへの対応②　けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉
	第 11 回	体調不良の子どもへの対応③　感染性疾患・薬
	第 12 回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応
	第 13 回	子どもの心と体の健康づくりのために
	第 14 回	望ましい保育環境と安全対策
	第 15 回	保育における応急手当

授業に対する予習・復習	予習：　授業計画を参考に教科書で内容を確認する。	復習：　授業で得た知識を確認する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（３０％）、課題（３０％）、実技（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子、編集　創成社）
参考文献	必要時資料配付
注意事項	１．教科書、筆記用具を持参すること。 ２．漫然とただ参加するのではなく、子ども・保護者の心境をイメージしながら主体的に取り組むこと。

科目名	家庭支援論	単位数	2	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
		授業形態	講義		

授業の内容	家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに家族、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。
到達目標	１．家族の意義とその機能について理解し、説明することができる。 ２．現在の子育て家庭を取り巻く環境について理解し、どのような支援が必要かを考えることができる。 ３．子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 ４．子育て支援の実際について理解し、今後どのような支援をしていきたいか考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション－授業の進め方・参考文献の紹介等－
	第２回	家庭の意義と機能
	第３回	家族・家庭・子育ての歴史①－江戸・明治まで―
	第４回	家族・家庭・子育ての歴史②－昭和から現在まで―
	第５回	現在の家庭を取り巻く状況①－図からの読み取り―
	第６回	現在の家庭を取り巻く状況②－読み取ったことから必要な支援について考える－
	第７回	子育て家庭支援の必要性
	第８回	現在の子どもを取り巻く状況
	第９回	子育て支援の法的根拠
	第 10 回	我が国の子育て支援・政策
	第 11 回	子育て支援の実際①－保育所・幼稚園における子育て支援の取組－
	第 12 回	子育て支援の実際②－地域における子育て支援の取組－
	第 13 回	子育て支援の実際③－その他－
	第 14 回	保育の場における具体的な事例紹介
	第 15 回	まとめ－子どもを産むこと・育てるということについて考える－

授業に対する予習・復習		
	予習：　出された課題は授業の予習・復習をかねるので真摯に取り組むこと。	復習：　授業で配布された資料を整理し、前回の授業内容を復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （適宜必要な資料を配布）
参考文献	授業内で必要な参考文献を紹介していく。
注意事項	適宜、必要な資料を授業内に配布するので、配布された資料はファイリングして毎回授業に持参するようにすること。

科目名	家庭支援論	単位数	2	担当教員	たかねざわ　あきら 高根沢　昭
		授業形態	講義		

授業の内容	保育者として今後様々な家庭と関わっていくにあたって、その現状把握や家庭支援の実態を学ぶことは不可欠であり、その過程の中で現在の問題点を探り今後の家庭支援の在り方を考えていく。 保育者が具体的にどのような支援ができるのかを、保育現場の事例などを通して一緒に考えていく。
到達目標	１．家庭の意義とその機能について理解している。 ２．子育て家庭を取り巻く社会状況等について理解している。 ３．子育て家庭の支援体制について理解している。 ４．子育て支援の実際や連携について理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 家庭の意義と機能　－　定義から考える
第２回	家庭支援の必要性 －　家庭の実態と生活の課題
第３回	保育士が行う家庭支援の原理 －　保育者として何ができるのか
第４回	家庭生活を取り巻く社会状況の変化 －　保育機能の低下と格差社会
第５回	現代の家庭における人間関係 －　多様化への配慮とは
第６回	地域社会の変容と家庭支援 －　地域社会の変容と連携の必要性
第７回	男女共同参画社会とワークバランス －　男女共同参画の実態と問題点
第８回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 －　家庭福祉の法制度と社会資源の持つ役割
第９回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 －　子育て関連の新制度の理解と保育者の役割
第 10 回	子育て支援サービスの概要 －　多様化する支援サービスの在り方と今後
第 11 回	保育所入所児童の家庭への支援 －　保育所の役割と支援の実際
第 12 回	地域の子育て家庭への支援 －　保育所への期待と現実
第 13 回	要保護児童及びその家庭に対する支援 －　現状の理解と我々にできる支援とは
第 14 回	子育て支援における関係機関との連携 －　連携における保育者の役割
第 15 回	子育て支援サービスの課題 －　待機児童対策と保育者の地位の向上・まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　次回の授業予定の中でその都度伝えていく。	復習：　授業の資料をよく整理しておくこと。 授業中に指摘した事項や用語などを調べてまとめておく。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（４０％）、レポート（２０％）、授業態度（４０％）	
教科書	なし （毎回資料を配布）	
参考文献	『家庭支援論』（新保幸男編、中央法規出版） 『実践家庭支援論』（松本園子、みなみ書房）	
注意事項	配布された資料はファイリングして毎回持参すること。	

科目名	相談援助	単位数	1	担当教員	こむろ　たいじ 小室　泰治
		授業形態	演習		

授業の内容	相談援助において必要な方法や知識・及び技術を学び、相談者として自己理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、具体的展開について事例など演習を交えながら解説する。
到達目標	１．相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 ２．相談援助の方法、技術を説明することができる。 ３．地域にある社会資源の活用方法を説明することができる。

授業計画

第１回	相談援助とは何かについて学ぶ 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する
第２回	相談援助の理論と歴史的変遷について学ぶ 相談援助の定義と理論を理解する
第３回	相談援助の基本的枠組みを学ぶ 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術があることを理解する
第４回	援助技術の理念と価値について学ぶ バイステックの援助関係を成立させるための７つの原則を学ぶ
第５回	相談援助の展開過程 面接の開始から問題解決の終結までの過程を学ぶ
第６回	相談援助を行う上での倫理を学ぶ 専門職として守るべき倫理綱領を学ぶ
第７回	保育現場における直接援助技術の実際 保育現場で保護者の面接やグループワークの方法について事例を通して修得する
第８回	保育所におけるコミュニティーワーク 地域に根ざした保育所のあり方探究する
第９回	地域にある社会資源の活用 相談援助に係る関係機関や地域にある社会資源を探索する
第 10 回	事例研究 育児不安とストレスに関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 11 回	事例研究 母子関係と母親の自立に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 12 回	事例研究 母子分離不安に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 13 回	自己覚知とスーパービジョン 援助者の自己覚知を育てるための方法としてのスーパービジョンを学ぶ
第 14 回	保育の場面とソーシャルワーク活用の可能性 日々の保育実践の“意識”的な積み重ねであることを学ぶ
第 15 回	相談援助における課題 まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　日ごろからニュースや新聞報道に目を通し、子育ての悩みや地域の課題について考えておくこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、発表（４０％）授業態度（１０％）
教科書	『子どもたちの生活を支える相談援助』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房，2015）
参考文献	『ケースワークの原則』（F・P バイステック著、誠信書房）
注意事項	１．授業中スマートホンなどはカバンの中に入れておくこと。 ２．グループワークやロールプレイなども行うので、積極的に参加すること。

科目名	相談援助	単位数	1	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
		授業形態	演習		

授業の内容	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク（ケースワーク・グループワーク）について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークのかかわり、対人援助の方向性を示す価値、クライエントとの援助関係の形成を図るバイスティックの７原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法（ロールプレイ）、グループの人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例分析により実践的相談援助の実際等について学習していく。
到達目標	１．相談援助の意義と機能について学び、相談者の最善の利益を図ることを理解している。 ２．相談援助の原理・原則について学び、相談援助の理論を理解している。 ３．相談援助の展開過程について学び、相談者の問題解決に向けた道筋とその方法を理解している。 ４．個別援助技術と集団援助技術について学び、個別支援と小集団を活用した支援を理解している。

授業計画		
	第１回	相談援助の意義と機能 相談援助とは何か、何故、保育士が相談援助を学ばなければならないのかについて学ぶ
	第２回	相談援助とソーシャルワーク 相談援助とソーシャルワークの関係について学ぶ
	第３回	相談援助の価値と倫理 援助を方向づける価値と倫理が相談援助の前提条件であることを学ぶ
	第４回	相談援助の原理・原則① ノーマライゼーション、自立支援、医学モデル・生活モデル・社会モデル等について学ぶ
	第５回	相談援助の原理・原則② 自己覚知、エンパワーメント、パターナリズム、ソーシャルインクルージョン等について学ぶ
	第６回	個別援助技術の定義と原則① ケースワーク誕生の経緯、個別援助技術の成立条件等について学ぶ
	第７回	個別援助技術の定義と原則② バイステックの７原則、人権尊重等について学ぶ
	第８回	相談援助の展開過程 ケース発見からターミネーション・アフターケアまでの相談援助の展開過程と各段階に於いて行なうべきことについて学ぶ
	第９回	相談援助の展開過程の事例演習 事例に基づき、相談援助の展開過程を実践的に学ぶ
	第 10 回	相談援助の面接技法① 相談援助面接の構造について学ぶ
	第 11 回	相談援助の面接技法② 関わり技法の習得、実際の事例に基づき、適切な相談援助面接を演習形式で実践的に学ぶ
	第 12 回	個別援助技術の総合事例分析 個別援助技術を総合的に事例分析により実践的に学ぶ
	第 13 回	集団援助技術の定義と原則① 個別援助技術と集団援助技術の違い、集団の効果・展開過程、グループワークに於ける援助モデル等について学ぶ
	第 14 回	集団援助技術の定義と原則② グループワークの構成要素、事例演習による集団援助技術の実際について実践的に学ぶ
	第 15 回	相談援助に於けるリスクマネジメント　秘密保持、安全配慮義務違反、職員間の指示命令系統の不統一によるリスク、ハインリッヒの法則、クオリティインプルーブメント等について学ぶ

授業に対する予習・復習		
	予習：　現在の社会の中で起きている、さまざまな福祉の問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『保育者のための相談援助』（小林育子・小舘静枝・日高洋子、萌文書林） 『演習・保育と相談援助』（佐藤伸隆・中西逼彦、みらい） 『社会福祉援助技術』（松本寿昭（編著）、同文書院） 『相談援助の理論と方法Ⅰ』（社会福祉士養成編集委員会、中央法規）
注意事項	１．授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、本人確認の上、席替え、その他の処置を講ずる。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
		授業形態	演習		

授業の内容	保育者は保育相談支援の主な担い手として求められている。近年の社会状況の変化に伴い、子育てについて身近に相談できる人は以前より少なくなってきている。 授業では保育相談支援の意義や基本について考え、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えることを目的とする。また、保育現場や児童施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な視点を身につける。
到達目標	１．保育者が子育て相談支援を行うことの意義を説明することができる。 ２．保育相談支援の実施方法を解説することができる。 ３．保育所などの児童福祉施設において、保護者支援のあり方について説明ができる。 ４．自己理解を深め、保育者として自分自身のあり方を考えることができる。

授業計画		
	第１回	保育相談とは何か 保育相談の意義について学ぶ
	第２回	保育相談支援の方法 人間の尊厳を重視した支援の原則を理解する
	第３回	保護者支援の流れ 相談受理から終結までの流れを理解する
	第４回	保護者との関係づくり 保護者に信頼される保育者像を考えていく
	第５回	保育の環境構成を生かした保護者支援 環境構成の原理について学び、基本となる支援のあり方について事例を通して理解する
	第６回	地域の資源活用と関係機関との連携 地域で相談事業を行っている関係機関の役割を学ぶ
	第７回	地域の子育て相談における保育相談支援の実際 3 歳児未満の家庭で育つ子どもとその保護者の姿を把握し、親子への地域での支援について学ぶ
	第８回	相談実践事例から考える グループワーク：子育てに関する相談事例を通して傾聴のあり方、支援のあり方を学ぶ
	第９回	保護者の養育力向上支援 保護者の養育力を高める支援には保育者の資質が重要であることを学ぶ
	第 10 回	苦情対応から始まる支援の実際 保護者からの苦情にどのように対応すればよいか、事例を通して考える
	第 11 回	障害のある子どもをもつ保護者支援の実際 保育所における特別な配慮を要する子どもと家庭への支援を学ぶ
	第 12 回	保護者同士の関係を改善するための支援の実際 ママ友同士のトラブル解決方法について事例を通して考える
	第 13 回	保育所で行われるケースカンファレンスの実際 課題を抱える子どもと保護者への支援のあり方についてカンファレンスを通して学ぶ
	第 14 回	子育てサロンや育児サークルの実際 地域子育て支援センター等で行われている子育てサロンや育児サークルの意義を考える
	第 15 回	要保護児童の家庭に対する支援の実際 ハイリスク家庭の早期発見と対応方法について考える

授業に対する予習・復習	予習：	日ごろからニュースや新聞報道などに目を通し、母親の子育ての悩みなどについて把握しておくこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、発表（４０％）、授業態度（１０％）
教科書	『実践・保育相談支援』（青木紀久代　編著、（株）みらい）
参考文献	『子育てアドバイス実践ノート』（日本子育てアドバイザー協会、ぎょうせい出版） 『クライエント中心療法』（ロジャース、有斐閣新書）
注意事項	後半はグループワークで事例研究を行う。グループごとに相談事例について討議し、発表してもらうので積極的に発言できるよう心掛けること。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
		授業形態	演習		

授業の内容	保育士は児童の保育のみでなく、児童の保護者支援も業務となっている。保育相談支援とはどのようなものか、何故保育相談支援が必要なのか、保育相談支援はどのような技術を用いて、またどのように展開して行なっていくのか。保育相談支援の援助内容と方法、及び支援を行った後の自分たちの保護者支援の効果測定・評価方法について事例を通して学習していく。さらに、保育所以外の児童福祉施設の保護者支援についても学習していく。
到達目標	１．保育相談支援の意義・原則について学び、保育士が保護者支援を行なうことを法、及び子どもの最善の利益を図る視点から理解している。 ２．保育相談支援の基本姿勢、及びその限界と関係機関との連携を学び、これらを理解している。 ３．保育相談支援技術について学び、それぞれの「観察・同感・承認・支持・解説・物理的環境の構成、行動見本の提示、その他の技術」等を理解している。 ４．保育所以外の児童福祉施設の保護者支援について学び、施設ごとの保護者支援の違いとその支援内容について理解している。

授業計画		
	第１回	保護者に対する保育相談支援の意義 何故、保護者に対し、保育士が保護者支援を行なうのかについて学ぶ
	第２回	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援① 保育相談支援の原則、地域子育て支援の原則等について学ぶ
	第３回	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援② 保育相談支援と相談援助の違いと相互関連性について学ぶ
	第４回	保育相談支援の基本① 子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有等について学ぶ
	第５回	保育相談支援の基本② 保護者の養育力の向上支援、保護者との信頼関係の構築等について学ぶ
	第６回	保育相談支援の展開過程 支援の前提から事後評価、終結の各展開過程について学ぶ
	第７回	保育相談支援の実際①(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「観察・情報収集・同感」等について実践的に学ぶ
	第８回	保育相談支援の実際②(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「承認・支持・気持ちの代弁・伝達」等について実践的に学ぶ
	第９回	保育相談支援の実際③(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「解説・方法の提案・対応の提示・気持ちの代弁」等について実践的に学ぶ
	第 10 回	保育相談支援の実際④(演習:環境を通した保育相談支援) 保育相談支援は、保育士による直接的支援ばかりでなく、さまざまな環境を通しても行われる。これらの方法について学ぶ。
	第 11 回	保育相談支援の実際⑤(演習:記録技法) 記録の意義、叙述体記録・説明体記録・要約体記録、演習による記録の執り方について実践的に学ぶ
	第 12 回	保育所での日常場面に於ける保育相談支援 送迎時、通信、懇談会、行事等に於ける実際の保育相談支援の仕方について学ぶ
	第 13 回	保育相談支援の効果測定と評価(短期的支援の評価と長期継続的支援の評価) 効果測定とは何か、短期的支援の評価方法と長期継続的支援に於ける過程評価と成果評価について演習形式で実践的に学ぶ
	第 14 回	児童福祉施設における保育相談支援の実際(演習) 児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達支援センター等の児童福祉施設に於ける保育相談支援について学ぶ
	第 15 回	保育相談支援に関係の深い関係機関の理解 母子生活支援施設、社会福祉協議会、地域包括支援センター、福祉事務所等の業務内容等について学ぶ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業に関連した事例などについて、学生自身があらかじめ新聞・雑誌等での事前調査を行う。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『保育相談支援』（柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房）、『保育相談支援』（小林育子、萌文書林） 『保育所における家庭支援』（金子恵美、全国社会福祉協議会）、『保育所保育指針解説書』（ひかりのくに） その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。
注意事項	１．授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、本人確認の上、席替え、その他の処置を講ずる。

科目名	教育原理	単位数	2	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
		授業形態	講義		

授業の内容	「教育」や「学校」について本質的に理解するために必要な基礎的知識や考え方を習得するように指導します。
到達目標	１．学生が自分なりの保育観や教育観を形成していく力を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意や説明等
	第２回	普通のことや常識を疑う
	第３回	人間の特質
	第４回	教育の可能性と限界
	第５回	教育とは何か①　教育の語義
	第６回	教育とは何か②　教育の意義
	第７回	学校の誕生とその歩み
	第８回	近代学校の成立と性格①　良い点
	第９回	近代学校の成立と性格②　改善していくべき点
	第 10 回	幼稚園と保育所の誕生
	第 11 回	幼稚園と保育所の歩み
	第 12 回	教育制度
	第 13 回	教育の内容と方法
	第 14 回	教育の評価と経営
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書の指定部分を事前に熟読しておく。	復習：　必要に応じて小テストに対応できるようにしておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２５％）、授業態度（２５％）
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』（林　邦雄・谷田貝　公昭［監修］、大沢　裕［編著］、一藝社）
参考文献	必要に応じて紹介
注意事項	１．子どもや教育そして学校について常識とされていることを大いに疑ってほしいと思う。 ２．文字の読み書きや文章を読むことに慣れてほしい。 ３．専門用語等について図書館等を利用するなどして調べ、積極的にそして主体的に学ぶ態度を養ってほしい。

科目名	保育原理	単位数	2	担当教員	とみやま　ふとし 富山　大士
		授業形態	講義		

授業の内容	保育の制度・思想・歴史について学び、保育の意義および今日の保育のあり方について考える。 育ちや学びの連続性を見つめつつ、保育の内容・保育の方法・保育の計画について学ぶ。 保育・子育てに関する現状を理解し、今日的課題について考える。
到達目標	１．保育の制度・思想・歴史の知識をベースとし、保育の意義について理解し、自ら考えることができる。 ２．就学後の姿も視野に入れつつ、保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上について理解を通して、保育の展開に関する技能の基礎を習得している。 ３．保育・子育てを取り巻く社会情勢・制度の現状について知識を得るとともに、今日的課題について自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 「保育」とは
	第２回	子どもの発達と子ども理解 （子どもの発達・保育所保育指針の理解・子どもの理解・保育者の保育観）
	第３回	保育の思想と歴史（諸外国） （西洋を中心とした諸外国における保育の歴史）
	第４回	保育の思想と歴史（日本） （日本における保育の歴史）
	第５回	保育の場 （保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育等）
	第６回	保育の目的と内容 （領域の考え方、五つの領域）
	第７回	保育の方法 （環境を通した保育、遊びを通しての指導、子どもの自発性と保育者の意図性）
	第８回	保育所保育の実際 （保育所での実際の保育の映像、話を通じた保育現場の理解）
	第９回	保育の計画と評価 （保育課程・教育課程、指導計画、保育実践と計画）
	第 10 回	保護者支援、子ども・子育て支援新制度 （子育て支援の概念と必要性、子育て支援の実際、待機児童問題の理解、新制度における子育て支援の位置づけ）
	第 11 回	小学校との連携・接続 （保幼小の連携・「幼児期」から「児童期」への育ちの連続性と非連続性・保幼小の連携の課題）
	第 12 回	保育者の専門性 （保育者の成長、自己評価、研修制度）
	第 13 回	「私の理想の保育施設を考える」①　趣旨説明、およびグループ討議 （これまでの学びを活かし、望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、考えをまとめる）
	第 14 回	「私の理想の保育施設を考える」②　グループ討議、および発表資料まとめ （望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、発表資料としてまとめていく）
	第 15 回	「私の理想の保育施設を考える」③　グループ発表 （自分の所属するグループの発表をするとともに、他のグループの発表を聞き、保育観を再構築する）

授業に対する予習・復習		
	予習：　ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけ、授業内容について毎回確認をした上で授業に臨むこと。	復習：　授業での学びを深めるために課題レポートを作成し、次回授業にて提出すること。授業開始時に行う前回授業内容の確認小テストに向けて、毎回の授業の復習を必ず行うこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	授業にて指示
参考文献	『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	１．授業の開始時に、前回授業の理解度を確認する小テストを行う。 ２．ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけて授業内容について毎回確認するとともに、ノートは丁寧にまとめて書くこと。

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
		授業形態	講義		

授業の内容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	１．教育心理学の基本用語を正確に理解している。 ２．子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている。 ３．教育者として必要な心理学的な関わり方を身につけている。

授業計画

第１回	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味、子どもにとって教育とは何かを考える
第２回	子ども観の変容
第３回	発達課題
第４回	認知発達
第５回	学習理論① 学習とは何か
第６回	学習理論② 条件づけ
第７回	学習理論③ 社会的学習理論について
第８回	子どものやる気① 動機づけ理論について
第９回	子どものやる気② 意欲と無気力
第 10 回	子どものやる気③ 褒めること，叱ること
第 11 回	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論
第 12 回	子どもの個性を理解する② 知能について
第 13 回	教育環境と移行期への対応
第 14 回	教育方法① 教授方法について
第 15 回	教育方法② 評価について

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　配布するプリントを中心に各回の授業内容を復習し、疑問点があれば次回に確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし
参考文献	講義の中で適宜紹介
注意事項	１．講義形式で行います。 ２．将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために、講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。

科目名	保育者論	単位数	2	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
		授業形態	講義		

授業の内容	保育者として知らなければならない基本的な事柄や実習に向けての心構えとなるような内容を指導していきます。
到達目標	１．学生が自覚して実習に臨めるような態度形成や、認識を備えている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意と説明等
	第２回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割①　それぞれの違い
	第３回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割②　保育士とは
	第４回	幼稚園教諭と保育士の仕事と役割③　幼稚園教諭とは
	第５回	日本の教職の特質①　キーワードは何か
	第６回	日本の教職の特質②　アメリカとの比較
	第７回	指導と懲戒①　体罰の定義
	第８回	指導と懲戒②　体罰是非
	第９回	子どものしつけをめぐる問題①　今昔の違い
	第 10 回	子どものしつけをめぐる問題②　国際化の中で
	第 11 回	安全と事故防止①　事故の定義等
	第 12 回	安全と事故防止②　保育者としての対応
	第 13 回	保育者としての服務と望ましい資質①　服務とは
	第 14 回	保育者としての服務と望ましい資質②　資質とは
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書の指定部分を熟読しておく。 事前に必要事項について調べておく。	復習：　必要に応じて小テストに対応できるようにしておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２５％）、授業態度（２５％）
教科書	『これだけは身につけたい小学校教員の常識６７』（村越晃　編、一藝社）
参考文献	必要に応じて紹介
注意事項	１．保育者になることの自覚をもって自分自身をよく見つめてほしい。 ２．知らないことを知ることに一生懸命になってほしい。 ３．図書館等を利用し、積極的にそして主体的に学ぶ態度を養ってほしい。

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
		授業形態	講義		

授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。
到達目標	１．施設養護の体系や援助過程について理解している。 ２．レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方などを理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	子どもの社会的養護
第３回	日本における社会的養護のしくみ
第４回	子どもの権利と社会的養護
第５回	施設養護の種類
第６回	施設養護に関わる専門職
第７回	アドミッションケアとインケア
第８回	リービングケアとアフターケア
第９回	中間レポート
第 10 回	家庭的養護の理念と里親制度　※レポート提出
第 11 回	里親制度（ＶＴＲ）
第 12 回	子育て困難家庭への支援行政の仕組みとソーシャルワーク
第 13 回	ＤＶケースと虐待ケースへのソーシャルワーク
第 14 回	筆記試験（小テスト）、ＶＴＲ視聴（ＤＶ）
第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　次回の講義項目について教科書やプリントを用いて予習する。	復習：　社会福祉や児童家庭福祉で学んだ専門用語などの復習。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、課題（１０％）、授業態度（１０％）
教科書	『子どもの社会的養護』（望月彰編著、建帛社）
参考文献	適宜紹介
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと。

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう） 章雄（あきお）
		授業形態	講義		

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。
到達目標	１．社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 ２．「子どもの最善の利益」とは何かについて理解している。 ３．社会的養護に携わる保育士の職務と倫理について理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～「社会的養護」とは 社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ
	第２回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われきたか
	第３回	社会的養護問題の本質 育てられない家庭環境と社会構造の問題について学ぶ
	第４回	社会的養護の仕組み 児童相談所を中心とした「措置」制度について学ぶ。「措置」と「契約」について
	第５回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ
	第６回	里親制度・親権と養子縁組について なぜ今里親委託推進なのか
	第７回	社会的養護実践の枠組み（ケースワーク・グループワークなど） 個別対応から施設や地域での流れや取り組みについて学ぶ
	第８回	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ　理解度チェックとレポート
	第９回	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について学ぶ
	第 10 回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子どもたちについて理解する
	第 11 回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について
	第 12 回	今後の社会的養護の方向性 児童福祉法の総則改正と子どもの権利条約、「今後の社会的養護の将来像」について学ぶ
	第 13 回	演　習Ⅰ 児童福祉施設での実践事例について学習する・保育士の役割や倫理についても学ぶ
	第 14 回	演　習Ⅱ 事例研究　子どものルーツを知る権利について・学習する子どもの権利擁護について
	第 15 回	子どもの最善の利益と権利擁護について 最終まとめ　理解度チェックとレポート

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：　配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（３０％）、レポート（２０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『社会的養護［第４版］』(小池由佳 山縣文治 編著、ミネルヴァ書房)
参考文献	授業で適宜紹介
注意事項	１．評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。 ２．前半は主に講義形式ですが、後半は課題発表や事例研究など、なるべく授業に参加していただくことを予定しています。受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本プリント配布で授業をすすめますが、補足的にテキストを使います。

科目名	発達心理学	単位数	2	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
		授業形態	講義		

授業の内容	発達とは、人と人をとりまく社会との交互作用による共有事象です。発達を捉える広い視野を身につけるために発達過程を正しく理解し、子どもの発達にまつわる事例について理論的背景を確認しながら必要な知識と工夫を身につけ、子育てや教育の現場に活かしていけるように学びを深めていくことを目的とします。
到達目標	１．生涯発達の考え方を基本に，人間の発達過程について理解している。 ２．子どもの発達を理解するために必要な基礎知識を身につけている。 ３．保育者としての自己理解をしている。

授業計画		
	第１回	発達とは何か
	第２回	比較行動学から見た発達
	第３回	遺伝と環境
	第４回	個体発達の過程①（胎児期・新生児期）
	第５回	個体発達の過程②（乳児期・タドラー期）
	第６回	個体発達の過程③（幼児期）
	第７回	個体発達の過程④（児童期・思春期）
	第８回	個体発達の過程⑤（青年期・成人期・老年期）
	第９回	フロイトの発達理論
	第 10 回	エリクソンの発達課題
	第 11 回	ピアジェの認知発達理論
	第 12 回	人間関係の発達①（愛着理論と対人関係）
	第 13 回	人間関係の発達②（仲間関係）
	第 14 回	感情・情動の発達
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：	授業ノート、プリントを中心に各回の授業内容を復習し、興味を持った内容について自ら調べるなど理解を深めてください。疑問点は次回に確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし
参考文献	講義の中で適宜紹介
注意事項	講義形式で行います。

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	三好（みよし） 力（ちから）
		授業形態	演習		

授業の内容	既習の知識を基に、様々な保育場面における対応を考えていく。 演習形式で授業を行うため、個人でのワーク、グループワーク、発表などを行っていく。 自ら考えることと集団で考えることで多様な価値観を身につけていけるようにしていく。
到達目標	発達心理学や教育心理学の知識を基に保育実践に対して応用していく力を身につけている。 １．子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 ２．生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、対応することができる。 ３．保育における発達援助について自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	イントロダクション：保育者を目指す者
	第２回	子どもの発達と保育実践①　子ども理解における発達の把握
	第３回	子どもの発達と保育実践②　環境としての保育者と子どもの発達
	第４回	子どもの発達と保育実践③　子ども相互の関わりと関係作り①：言葉の発達
	第５回	子どもの発達と保育実践④　子ども相互の関わりと関係作り②：仲間関係の発達
	第６回	子どもの発達と保育実践⑤　自己主張と自己統制
	第７回	子どもの発達と保育実践⑥　子ども集団と保育の環境：社会性の情緒発達
	第８回	生活や遊びを通した学びの過程①　子どもの生活と学び
	第９回	生活や遊びを通した学びの過程②　子どもの遊びと学び
	第 10 回	生活や遊びを通した学びの過程③　生涯にわたる生きる力の基礎を培う
	第 11 回	保育における発達援助①　基本的生活習慣の獲得と発達援助
	第 12 回	保育における発達援助②　発達の課題に応じた援助や関わり：子どもの個人差に配慮した保育
	第 13 回	保育における発達援助③　発達の連続性と就学への支援：就学に向けた支援
	第 14 回	保育における発達援助④　発達援助における協働：特別なニーズの子への支援
	第 15 回	保育における発達援助⑤　現代社会における子どもの発達と保育の課題：家族支援・保育におけるカウンセリングマインド

授業に対する予習・復習	予習：　授業内で適宜アナウンスします。	復習：　授業内で考えたことについて、発達心理学などの既修の知識を見直し、より深いものへと高めてください。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（３０％）、発表（３０％）、授業態度（４０％）
教科書	『実践・発達心理学ワークブック』（青木紀久代・矢野由佳子編、株式会社みらい）
参考文献	なし
注意事項	１．授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。 ２．積極的な授業参加を評価します。ディスカッションなどの参加が見られない場合は減点します。

科目名	教育社会学	単位数	2	担当教員	のぶた　りな 信田　理奈
		授業形態	講義		

授業の内容	教育社会学は、教育事象を社会学的な手法を用いてアプローチする学問分野であり、多様な問題領域を取り込みながら学際的に発展してきた。本科目では教育の社会的機能、現代の子どもたちをめぐる諸問題と支援内容について、各種データを駆使しながら社会学的視点より講義する。
到達目標	１．現代の教育事象を社会学的視点から考えることができる。 ２．個々の教育事象について自ら意見を発信することができる。 ３．子どもを取り巻く環境と教育的課題について理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス：授業の目的と内容・進め方、成績評価の方法、教育社会学とは何か
第２回	子どもの社会化①　家庭における「しつけ」の意義
第３回	子どもの社会化②　学校教育の意義と社会的役割
第４回	子どもの社会化③　地域のもつ「教育力」
第５回	グローバリゼーションと教育①　国際学習到達度調査（PISA)、新しい学力観
第６回	グローバリゼーションと教育②　途上国における就学率（識字率）と絶対的貧困の関係
第７回	グローバリゼーションと教育③　先進国における子どもの幸福度、相対的貧困と教育格差
第８回	非行・逸脱・不適応①　犯罪、虐待、いじめ、自殺
第９回	非行・逸脱・不適応②　不登校、不就学、長期欠席、ひきこもり、ニート
第 10 回	子どもを取り巻く環境①　ICT の普及拡大と電子メディアによる影響
第 11 回	子どもを取り巻く環境②　国の少子化対策と子育て支援、待機児童問題、ワーク・ライフ・バランス
第 12 回	子どもを取り巻く環境③　地域と企業による子育て支援、学童保育、放課後子ども教室、放課後子ども総合プラン
第 13 回	教育とジェンダー①　学校文化とジェンダー秩序の再生産、潜在的カリキュラム
第 14 回	教育とジェンダー②　性別カテゴリーに基づく教育システム、進学率、専攻分野、教員配置
第 15 回	まとめ：全体の振り返り（当該授業から学んだことを保育の現場でどう生かすかについてのグループ討論）

授業に対する予習・復習	予習：　特に必要としない。	復習：　配布レジュメや資料以外にも、下記の参考文献を通してポイントを整理しておくとよい。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％)、レポート（３０％)、授業態度（２０％）
教科書	なし （レジュメ・資料を配布）
参考文献	『教育の社会学』（苅谷剛彦・濵名陽子・木村涼子・酒井朗、有斐閣アルマ）
注意事項	１．授業中の私語や居眠りなど、学習行為とみなされないものは厳に慎むこと。 ２．常に問題意識を持ち、積極的な態度（発言や質問等を含む）で授業に臨むこと。 ３．授業の活性化を図るため、グループワークやディスカッションを適宜取り入れる。

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	三好（みよし） 力（ちから）
		授業形態	講義		

授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。 本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	１．臨床心理学の基礎的知識を習得している。 ２．学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 ３．学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。

授業計画		
	第１回	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる
	第２回	パーソナリティの理解 パーソナリティとは何かを考えてみる
	第３回	精神障害① 抑うつ障害
	第４回	精神障害② 不安障害
	第５回	精神障害③ 統合失調症
	第６回	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害
	第７回	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる
	第８回	発達障害① 精神遅滞・自閉症スペクトラム
	第９回	発達障害② ADHD・LD
	第 10 回	臨床心理学の理論と方法① 精神分析
	第 11 回	臨床心理学の理論と方法② 認知行動療法
	第 12 回	臨床心理学の理論と方法③ 人間性心理学
	第 13 回	臨床心理学の理論と方法④ ナラティヴ・アプローチ
	第 14 回	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について
	第 15 回	現代社会と臨床心理学 サブカルチャーの中にみられる臨床心理学的問題から考えてみる

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業内で適宜アナウンスします。	復習：　授業後該当箇所を教科書で内容を確認してください。不明な箇所や疑問があれば、次回講義などで質問をして下さい。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（４０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	『絶対役立つ臨床心理学　カウンセラーを目指さないあなたにも』（藤田哲也監修、ミネルヴァ書房）
参考文献	なし
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	伊藤（いとう）　明芳（あきよし）
		授業形態	講義		

授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。臨床心理学は心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようとしたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。 本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	１．臨床心理学の基礎的知識を習得している。 ２．学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 ３．学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。

授業計画

第１回	イントロダクション
第２回	心の発達
第３回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法① 精神分析①　心の構造等
第４回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法② 精神分析②　精神分析的心理療法
第５回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法③ 行動主義①　学習等
第６回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法④ 行動主義②　行動療法
第７回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法⑤ 人間性心理学①　自己実現等
第８回	臨床心理学の心の捉え方と心理療法⑥ 人間性心理学②　来談者中心療法
第９回	心理アセスメント
第 10 回	心の問題の理解と対応
第 11 回	心と脳
第 12 回	発達障害
第 13 回	心の病気
第 14 回	保育者自身のメンタルヘルスを考える 臨床心理学の理論の活用
第 15 回	まとめと今後へのアドバイス

授業に対する予習・復習	予習：　事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。	復習：　学んだ知識の定着を図ること。理解が困難な場合は遠慮なく担当教員に尋ねること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない レポート（７０％）、課題（３０％）
教科書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援～その方法と実際』（須永進　編、同文書院，2013）
参考文献	他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介
注意事項	１．講義を中心におこなう。実際の事例(ケース)などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。 ２．受講者には自ら学び考える意欲をもって講義に参加する態度が求められる。

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	今水（いまみず）　豊（ゆたか）
		授業形態	講義		

授業の内容	保育園や幼稚園において相談のニーズが増える昨今、先生が子どもや保護者を理解し、良好な援助関係を築くために、臨床心理学は有用な分野である。臨床心理学とは、心理的問題に悩む人を援助するための学問である。いわば、心の問題を抱えている人の痛みを共有し、援助に活かす試みである。授業では、心理的問題のとらえかたや心理療法の実際について論理的・実践的に学ぶ。
到達目標	本科目では、以下の３点を達成目標とする。 １．臨床心理学的な理解を援助活動に活かすことができる。 ２．他者を尊重できるコミュニケーション力を身につけている。 ３．自身の課題を把握できる。

授業計画		
	第１回	臨床心理学とは何か
	第２回	自他を認めるグループワーク
	第３回	心の発達①　社会心理的発達
	第４回	心の発達②　親子関係の発達
	第５回	心理アセスメント①　アセスメントとは何か
	第６回	心理アセスメント②　アセスメントの体験
	第７回	心理アセスメント③　自己を分析する
	第８回	心理的問題①　うつ病
	第９回	心理的問題②　不安障害
	第 10 回	心理的問題③　統合失調症
	第 11 回	心理療法の実際①　精神分析
	第 12 回	心理療法の実際②　来談者中心療法
	第 13 回	心理療法の実際③　認知行動療法・理論
	第 14 回	心理療法の実際④　認知行動療法・実践
	第 15 回	心理療法の実際⑤　ストレスマネジメント

授業に対する予習・復習		
	予習：　普段から臨床心理学に関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：　わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （適宜資料を配布）
参考文献	授業にて適宜紹介
注意事項	１．講義形式の他に、体験的な学習も行う。 ２．援助場面では、人の話に耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き、理解するという構えを求める。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	金　宰郁（きむ　じぇうく）
		授業形態	演習		

授業の内容	本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。 具体的には、以下のとおりです。 ①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。 ②情報機器及び教材の活用について、具体的な表計算ソフトの操作を通じて理解すること。
到達目標	１．表計算ソフトの基本機能及び応用機能を身につけ、今後大学における研究および論文、即ち、幼児教育に関するデータを集計・分析できる。

授業計画

第１回	この授業科目に関するガイダンス
第２回	表計算ソフト「Excel」の基礎①：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読込み、その他
第３回	表計算ソフト「Excel」の基礎②：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他
第４回	表計算ソフト「Excel」の基礎③：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他
第５回	表計算ソフト「Excel」の基礎④：グラフの作成
第６回	表計算ソフト「Excel」の基礎⑤：グラフの設定の変更１（絵グラフなど）
第７回	表計算ソフト「Excel」の基礎⑥：グラフの設定の変更２（複合グラフなど）
第８回	「Excel」の応用①：セル番地の絶対参照と相対参照
第９回	「Excel」の応用②：関数の利用①（IF、AND、OR 関数）
第 10 回	「Excel」の応用③：関数の利用②（VLOOKUP、HLOOKUP、INEDX 関数）
第 11 回	「Excel」の応用④：関数の利用③（DATE、PMT 関数など）
第 12 回	「Excel」の応用⑤：データ処理の応用①（データベース合計、平均など）
第 13 回	「Excel」の応用⑥：データ処理の応用②（条件付きデータベースなど）
第 14 回	「Excel」の応用⑦：データ処理の応用③（データのクロス集計：ピボットテーブル）
第 15 回	「Excel」の応用⑧：実践データの処理

授業に対する予習・復習	予習：　表計算ソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：　教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Excel2013 全機能 Bible』（高橋慈子・八木重和、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	えのもと　のりこ 榎本　功子
		授業形態	演習		

授業の内容	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。
到達目標	１．エクセルによるさまざまな文書や表計算のスキルを習得するとともに、より高度な文書作成スキルを身につけている。

授業計画		
	第１回	簡単な表作成
	第２回	連絡名簿を作る
	第３回	便利な機能オートフィルを学ぶ
	第４回	円グラフや棒グラフの作成
	第５回	カレンダーを作る（クリップアート、オートシェイプの活用）
	第６回	デジカメや携帯で写真を撮り、パソコンに取り込み、保存する
	第７回	パソコンで簡単に写真を修正・加工し、その写真をエクセルに取り込む
	第８回	シートのコピーを学ぶ
	第９回	シートをまたいだコピーなどについて学ぶ
	第 10 回	表計算のしかた
	第 11 回	引き算、掛け算、割り算など
	第 12 回	簡単な関数の使い方　課題を使って学ぶ
	第 13 回	If　関数を使う
	第 14 回	複雑な関数を使う
	第 15 回	機能を使った課題に取り組む

授業に対する予習・復習	予習：　実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし （授業に合わせたプリントを配布）
参考文献	必要に応じて随時紹介
注意事項	毎回課題を出します。課題に取り組むことでスキルアップできるようにします。

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
		授業形態	演習		

授業の内容	障害児保育とはどのようなものか、ＩＤＤ、ＡＳＤ、ＡＤＨＤ、ＳＬＤ等の障害児の障害特性・行動特性の理解、基本的身辺自立技能の獲得方法、ＴＥＡＣＣＨプログラムの考え方による障害児療育支援の実際、問題行動の捉え方やその解決方法、家族支援の在り方、障害児療育に於ける関係機関との連携・協力について学ぶ。
到達目標	１．知的発達症、自閉症スペクトラム、限局性学習症等の発達障害等について学び、その障害特性と指導法を理解している。 ２．視覚的構造化・物理的構造化・時間的構造化・活動の構造化等について学び、その具体的支援法を理解している。 ３．障害児の問題行動をどのように捉え、どのように対応していくか、その支援方法を学び、具体的に問題解決に向けた支援方法立案を作成し、理解している。 ４．障害児支援は家族との一貫した支援が不可欠であり、どのように家族支援を行っていくかを学び、その具体的支援法を理解している。 ５．障害児支援を行うための関係機関の種類と業務内容について学び、円滑な連携先を理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス 学習の狙いについて学ぶ	第 16 回	ダウン症の理解と保育① 視覚的映像により、ダウン症の特性について学ぶ
第２回	現在の障害児者問題の現状 主に現在の障害児の置かれている現状について学ぶ	第 17 回	ダウン症の理解と保育② 身体的特性、発達特性、社会性等について学ぶ
第３回	障害児保育の仕組み① 障害児種別の動向・支援制度について学ぶ	第 18 回	注意欠如・多動性障害児の理解と保育 ＡＤＨＤの障害特性とその支援方法について学ぶ
第４回	障害児保育の仕組み② 乳幼児期に教えておくべきことについて学ぶ	第 19 回	限局性学習症児の理解と保育 ＳＬＤの障害特性とその支援方法について学ぶ
第５回	知的障害児の理解と保育 知的障害児の特性と保育の仕方について学ぶ	第 20 回	演習：問題行動の理解 問題行動の４つの機能等について実践的に学ぶ
第６回	演習：基本的身辺自立技能習得支援の実際① 排泄・食事等の習得方法の教え方を学ぶ	第 21 回	演習：問題行動に対する対処方法① オペラント行動・レスポンデント行動等について学ぶ
第７回	演習：基本的身辺自立技能習得支援の実際② 着脱・靴の履き方・礼儀等の習得方法の教え方を学ぶ	第 22 回	演習：問題行動に対する対処方法② 問題行動の機能の見つけ方・ＡＢＣ分析法の習得
第８回	自閉症の理解と保育 視覚的な映像により、自閉症の特性について学ぶ	第 23 回	演習：問題行動改善のための支援方法立案 ABC 分析法により、実践的に支援方法立案の仕方を学ぶ
第９回	自閉症の障害特性① DSM-5 に於ける自閉症の診断基準等について学ぶ	第 24 回	障害を持っていきることを考える あるダウン症児達の生き方から学ぶ
第 10 回	自閉症の障害特性② 実行機能障害・記憶障害・心の理論等について学ぶ	第 25 回	演習：総合的事例演習 これまでの学習から、事例を通して総合的に学ぶ
第 11 回	演習：自閉症児の理解と保育① ＡＳＤの定義と支援の歴史的変遷について学ぶ	第 26 回	学校教育への引き継ぎ 就学前療育から円滑な学校教育への引き継ぎ方法を学ぶ
第 12 回	演習：自閉症児の理解と保育② 構造化の種類とその効果について実践的に学ぶ	第 27 回	関係専門機関との連携の意義とその連携先① 児童相談所.・児童養護施設等の業務内容等について学ぶ
第 13 回	演習：自閉症児の事例検討① アセスメント方法について実践的に学ぶ	第 28 回	関係専門機関との連携の意義とその連携先② 子家セン・児童家庭支援センター等の業務内容について学ぶ
第 14 回	演習：自閉症児の事例検討② 望ましい目標立案の方法について実践的に学ぶ	第 29 回	家族支援① 家族支援の意義、保護者との信頼関係等の構築について学ぶ
第 15 回	児童発達支援センター等の障害児療育機関 発達障害を有する子どもの療育機関の役割を学ぶ	第 30 回	家族支援② 障害受容 5 段階、親子アスペ問題、親の会等について学ぶ

授業に対する予習・復習	予習：　現在の社会の中で起きている、さまざまな障害児問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『よくわかる障害児保育』（尾崎康子他、ミネルヴェア書房）、『発達障害白書』（日本発達障害連盟） 『保育白書』（全国保育団体連絡会）、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。
注意事項	１．授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)については、本人確認の上、最前列への席替え、その他の処置を講ずる。このような行為を行なう学生の成績評価は、授業態度の評価とする。尚、授業の各回の内容は、授業の進捗状況等により、順番が前後・教授内容を変更する場合もありうる。

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	こうが　たかし 甲賀　崇史
		授業形態	演習		

授業の内容	障害がある子どもの保育は、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通じて共に成長できる支援を考えていくことが大切です。授業では、障害児保育を支える理念、保育現場でであう障害の医学的・心理学的理解と援助の実際、ならびに家庭及び関係機関との連携について講述します。
到達目標	１．障害児保育を支える理念や歴史的変遷を説明できる。 ２．様々な障害の基礎を理解し、適切な援助を考え、環境を構成できる。 ３．障害がある子どものニーズに応じた保育の計画を作成することができる。 ４．保護者への支援や関係機関との連携の在り方について説明できる。

授業計画

第１回	「障がい」の概念①：障害とは何か	第 16 回	限局性学習障害のある子どもの医学的理解
第２回	「障がい」の概念②：国際的動向	第 17 回	限局性学習障害のある子どもの心理学的理解
第３回	日本の障害児保育の歴史① 黎明～戦前の成立と展開	第 18 回	限局性学習障害のある子どもの支援の実際
第４回	日本の障害児保育の歴史② 戦後～現在の展開と課題	第 19 回	注意欠如・多動症のある子どもの医学的理解
第５回	障害児保育の制度と形態① 分離・統合をめぐる議論	第 20 回	注意欠如・多動症のある子どもの心理的理解
第６回	障害児保育の制度と形態②　国際的標準としてのインクルーシブ教育(保育)の意義と課題	第 21 回	注意欠如・多動症のある子どもの支援の実際
第７回	障害がある子どもの理解と支援の原則	第 22 回	個別の指導計画と支援計画の作成
第８回	知的障害のある子どもの医学的理解	第 23 回	子ども同士のかかわりと育ち合い① 共に生活することの意味と課題
第９回	知的障害のある子どもの心理学的理解	第 24 回	子ども同士のかかわりと育ち合い② 技法（アプローチ）紹介
第 10 回	知的障害のある子どもの支援の実際	第 25 回	保育所・幼稚園での支援体制① 園内体制のあり方
第 11 回	自閉スペクトラム症の子どもの医学的理解	第 26 回	保育所・幼稚園での支援体制② 職員の連携の方法
第 12 回	自閉スペクトラム症の子どもの心理学的理解	第 27 回	家族への支援①　心理的理解と相互理解
第 13 回	自閉スペクトラム症の子どもの支援の実際	第 28 回	家族への支援②　家族と保育所・幼稚園との連携
第 14 回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と配慮	第 29 回	外部機関との連携①　医療、福祉専門機関との連携
第 15 回	肢体不自由のある子どもの理解と配慮	第 30 回	外部機関との連携②　小学校との連携のあり方

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　授業のノートやプリントで、各回の授業内容を復習してください。質問を歓迎します。疑問に思ったことは、自ら調べたり講師に聞いたりして、学びを深めてください。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（８０％）、レポート（２０％）	
教科書	なし	
参考文献	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴・直島正樹・橋本好市、ミネルヴァ書房） 『発達障害のある子の保育の手だて-保育園・幼稚園・家庭の実戦から-』（佐藤暁・小西淳子、岩崎学術出版社） 『発達障害白書』（公益社団法人　日本発達障害連盟、明石書店）	
注意事項	毎回、プリントを配布するので、ファイルに綴じて管理すること。	

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
		授業形態	演習		

授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。
到達目標	１．今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で体系的に理解している。 ２．自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	施設実習を振り返って
	第３回	障害をもつ人の生活実態（ＶＴＲ）
	第４回	ＶＴＲの内容についてディスカッション
	第５回	グループ決め、グループディスカッション
	第６回	テーマ選定
	第７回	グループレポート作成
	第８回	グループ発表内容の決定
	第９回	グループ活動①（調査）
	第 10 回	グループ活動②（調査及び発表準備）
	第 11 回	グループ活動③（発表準備）
	第 12 回	発表レジメ提出
	第 13 回	発表準備確認
	第 14 回	グループ発表①及び質疑応答（前半）
	第 15 回	グループ発表②及び質疑応答（後半）

授業に対する予習・復習			
	予習：	グループ活動の時期においては、発表に必要な資料等をあらかじめ調べるなどの予習をすること。	復習： グループ発表のための準備で分からないことばや今まで習ったことはあるが忘れてしまった用語などを見直す。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、発表（６０％）、授業態度（２０％）
教科書	『保育士養成課程　社会的養護内容』（春見静子他編、光生館）
参考文献	『最新保育資料集 2017』（ミネルヴァ書房） 参考文献は適宜紹介
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
		授業形態	演習		

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。
到達目標	１．アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを習得している。 ２．様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 ３．保育士としての倫理や責務について理解している。

授業計画

第１回	正確な情報共有とは何か ケースカンファレンスの方法と記録のまとめ方を学習する
第２回	演習Ⅰ　資料に基づいて事例を整理する①（養護施設） 児童養護施設に入所している子の事例
第３回	演習Ⅰ　資料に基づいて事例を整理する②（養護施設） 生育歴も含めて整理する
第４回	演習Ⅱ　障害児入所施設の事例（ショートステイ・医療型障害児施設） 「障害受容」と母親の気持ちを理解する
第５回	演習Ⅲ　障害児入所施設（医療型障害児施設）の事例 「失敗する権利」について学ぶ
第６回	演習Ⅳ　発達障害児への対応事例（学童保育所・保育所） 知的障害と発達障害について学ぶ
第７回	演習Ⅴ　乳児院から養護施設へ 措置変更に関する事例　「愛着の移行」について学ぶ
第８回	虐待対応について 児童虐待相談の構造とその対応方法について学ぶ
第９回	里親制度について DVD 学習 実際の里親事例について学ぶ
第 10 回	演習Ⅵ　被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 愛着に問題がある子への処遇について学ぶ
第 11 回	演習Ⅶ　乳児院から里親へ　（里親制度） 委託のプロセスや、施設のスタッフとしての支援のあり方などと養子縁組について学ぶ
第 12 回	演習Ⅸ　日常生活支援（児童養護施設等） 入所から退所に至る支援。アドミッションケアとインケアについて学ぶ
第 13 回	演習Ⅹ　子どもの自立支援について（児童養護施設等） 事例に基づき自立支援計画を作成する
第 14 回	児童の権利擁護 被措置児童虐待及び保育士等援助者としての倫理と責務について学ぶ
第 15 回	まとめ　守秘義務と個人情報保護について学ぶ 事例研究レポート　２事例

授業に対する予習・復習	予習：　事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：　配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（３０％）、課題（２０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	授業中に適宜紹介
注意事項	１．原則、事例提供や必要資料などプリントを配布します。必要に応じて、DVD など教材を用意します。 ２．各事例に基づいて対応について考えていきます。考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。なお、配付した資料について、事例を個人情報と見なし、その管理方法など徹底してください。現場ではその管理について厳しく問われます。

科目名	保育課程総論	単位数	2	担当教員	才郷（さいごう）　眞弓（まゆみ）
		授業形態	講義		

授業の内容	幼稚園や保育所、認定こども園等について法令から保育の基本を理解し、計画の意義を見出す。また、実習を意識した子どもの姿の読み取り・記録を行い、子どもへの理解を深め、指導に生きる記録を目指す。計画の意義と子どもへの理解を深めながら、指導計画の立案の基礎を身につけていく。
到達目標	１．法令から教育課程・保育課程や指導計画の意義と目的が読み取れる。 ２．子どもの姿を読み取りながら、子どもの発達や特徴を大まかに理解できる。 ３．基本的な指導計画の立て方を知り、簡単な計画・実行・評価・修正サイクルを実践できる。

授業計画

第１回	ガイダンス 法令の歴史、全体的な保育計画作成の基本を知る
第２回	「環境」の視点から教育課程・保育課程を読み取る ワーク形式で、子どもの姿を読み取り、記録する
第３回	「生活」の視点から教育課程・保育課程を読み取る ワーク形式で、子どもの姿を読み取り、記録する
第４回	指導計画についての基本的な考え方を理解する
第５回	幼稚園における教育課程・指導計画の基本を知る
第６回	保育所における保育課程・指導計画の基本（幼児）を知る
第７回	保育所における保育課程・指導計画の基本（乳児）を知る
第８回	認定こども園における全体的な計画・指導計画の基本を知る 教育課程・指導計画についての振り返りワークを行う
第９回	保育における PDCA サイクルを理解する 保育課程・指導計画についての振り返りワークを行う
第 10 回	指導計画作成のための基本を知る 部分指導計画を作成する①（子どもの姿・ねらい・内容）
第 11 回	部分指導計画を作成する②（具体的な指導内容）
第 12 回	部分指導計画を作成する③（具体的な指導内容）
第 13 回	グループに分かれて、作成した指導計画を基に実践演習・評価を行う①
第 14 回	グループに分かれて、作成した指導計画を基に実践演習・評価を行う②
第 15 回	保育における PDCA サイクルの理解を再確認する 個々の自己評価とまとめを行う

授業に対する予習・復習	予習：　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」に目を通す。	復習：　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」に目を通す。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（４５％）、発表（２５％）
教科書	なし
参考文献	『教育・保育課程論』（岩﨑淳子ほか著、萌文書林） 『流れがわかる幼稚園・保育所実習』（浅川繭子ほか著、萌文書林） 『教育課程・保育課程論』（千葉武夫ほか編、中央法規） 『乳児保育演習ブック』（池田りなほか著、ミネルヴァ書房）
注意事項	１．レポートについては、毎回授業中に出された課題に対してまとめたものを評価する。 ２．課題は、個々での取り組みとグループでの取り組みとから評価する。 ３．発表は積極的に行なった場合に評価する。発表を聞く態度も評価に含む。

科目名	保育課程総論	単位数	2	担当教員	たけいし ひとみ 武石 仁美
		授業形態	講義		

授業の内容	保育所や幼稚園の子ども達は、安心・安全に配慮し、健やかな成長発達を援助されながら生活している。 本講義では、保育所・幼稚園生活の全体構造を捉え、保育・教育課程の理解を深める。また、保育所に於ける保育計画の意義を考え、実習に向けて、実際の子どもの姿を捉えながら理解を深めていく。
到達目標	１．保育課程・教育課程に関する基礎理論を理解している。 ２．子どもの発達の過程や特徴理解を基に指導計画の作成を行い、作成の方法やポイントについて理解している。 ３．保育記録・指導案作成について学び、立案から改善までの全体構造を理解している。

授業計画		
	第１回	ガイダンス・保育施設の概要：保育環境の変化　保育施設の比較　保育所　幼稚園　認定子ども園
	第２回	保育施設の概要：保育所の行事　保育の進め方　保育者の仕事
	第３回	カリキュラムの基礎理論
	第４回	保育課程・教育課程
	第５回	幼稚園に於ける教育課程の変遷
	第６回	保育所に於ける保育課程の変遷
	第７回	保育・教育課程の編成
	第８回	指導計画の基礎と留意点(長期指導計画　短期指導計画)
	第９回	子どもの育ち・発達過程を理解する(０　１　２歳児)
	第 10 回	子どもの育ち・発達過程を理解する(３　４　５歳児)
	第 11 回	保育課程と保育
	第 12 回	教育課程と保育
	第 13 回	指導計画の作成(部分実習の指導案の立案)
	第 14 回	指導計画作成にあたり留意すべき事柄について確認をする
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書を精読し専門的用語を理解する。	復習：　授業の振り返りをすることで、理解度を深め、確認し、次の授業に繋げるようにする。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（２０％）、レポート（１０％）、課題（４０％）、授業態度（３０％）
教科書	『保育・教育課程総論』（佐藤康富編、大学図書出版）
参考文献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』
注意事項	

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	とみやま　ふとし 富山　大士
		授業形態	演習		

授業の内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の視点に沿って、子どもの姿の捉え方について学ぶ。 事例を通して領域別に学びを深めると共に、それらを総合的に捉える視点を養う。 保育者の果たすべき役割を意識し、事例を通して子どもの発達・状況に応じた指導・援助を自ら考える。
到達目標	１．幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の視点に沿って、子どもの姿を捉えることができる。 ２．５領域に沿った保育を理解するとともに、それらを総合的に捉えて保育全体を理解している。 ３．保育者の果たすべき役割を理解し、子どもの発達・状況に応じた指導・援助を自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構造
	第２回	子どもの姿を捉える①（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から）
	第３回	子どもの姿を捉える②（発達と生活から）
	第４回	子どもの姿を捉える③（子どもを取り巻く環境と遊びから）
	第５回	領域と保育内容①（領域「健康」）
	第６回	領域と保育内容②（領域「人間関係」）
	第７回	領域と保育内容③（領域「環境」）
	第８回	領域と保育内容④（領域「言葉」）
	第９回	領域と保育内容⑤（領域「表現」）
	第 10 回	領域と保育内容⑥（保育内容の総合的な展開）
	第 11 回	保育者の役割と保育内容①（気になる子どもの支援）
	第 12 回	保育者の役割と保育内容②（保護者との連携）
	第 13 回	保育者の役割と保育内容③（幼保小の連携）
	第 14 回	保育者の役割と保育内容④（家庭・地域・関係機関との連携）
	第 15 回	まとめ（「保育内容総論」の授業で学んできたこと）

授業に対する予習・復習		
	予習：　ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけ、授業内容について毎回確認をした上で授業に臨むこと。	復習：　授業での学びを深めるために課題レポートを作成し、次回授業にて提出すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『演習　保育内容総論』（酒井幸子・守巧、萌文書林）
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針　＜原本＞』（チャイルド本社） 『１・２歳児の自己肯定感の土台を育む』（芦澤清音、ひとなる書房）
注意事項	１．ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけて授業内容について毎回確認するとともに、ノートは丁寧にまとめて書くこと。 ２．日々の生活等において出会う乳幼児の姿を観察する意識を持つことが望ましい。 ３．事例の解釈を中心とした授業になる。自分ならどうするだろうと考えて主体的に授業に取り組むこと。

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	いしかわ　のぶまさ 石河　信雅
		授業形態	演習		

授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかに臨むかを事例に基づきながら学んでいく。	
到達目標	１．保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解している。 ２．子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 ３．各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解している。 ４．保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直すことができる。	
授業計画	第１回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。
	第２回	幼稚園教育要領・保育園保育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「５領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。
	第３回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子どもは成長し様々な学びをすることを学ぶ。
	第４回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。
	第５回	年齢相当の保育２・３歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。
	第６回	年齢相当の保育４・５歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する
	第７回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。
	第８回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを実体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。
	第９回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。
	第 10 回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。
	第 11 回	多様な保育ニーズ・・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。
	第 12 回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小１プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。
	第 13 回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。
	第 14 回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。
	第 15 回	まとめ・・学び続ける保育者へ・・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。
授業に対する予習・復習	予習：	復習：　講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について様々な方法を駆使して学びを深めるようにすること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、授業態度（２０％）	
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針』（チャイルド本社） ＜原本＞内閣府・文部科学省・厚生労働省	
参考文献	講義の中で随時提示する。	
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社の物である必要はない。	

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	茗井（めい）　香保里（かおり）
		授業形態	演習		

授業の内容	「生涯健康」つまり 元気で活き活きと生きていく喜びに満ちた人生を送るためには、人生の基礎を培う乳幼児期にいかような経験をし、いかような力を養うことが必要なのかを考える。それらをふまえ、乳幼児の心身の健康増進と健やかな生活の確立を目指すための援助や指導、保育者の役割について学ぶことを目的とする。
到達目標	１．乳幼児の健全な発育発達について学び、健康生活と運動の重要性について理解している。 ２．安全教育について学び、生涯教育としての安全教育と生きる力について理解している。 ３．保育における食育について学び、その重要性について理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 健康とは
	第２回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の扱う「健康」について
	第３回	乳幼児の身体の発育発達
	第４回	乳幼児の社会的な発育発達
	第５回	健康生活と運動
	第６回	乳幼児期の運動乳幼児期の運動遊び
	第７回	幼児期の遊び、運動遊び
	第８回	乳幼児の基本的生活習慣の獲得
	第９回	前半のまとめ（グループワーク）
	第 10 回	安全教育と生きる力
	第 11 回	防災と危機管理
	第 12 回	食と健康
	第 13 回	病気の予防、衛生管理
	第 14 回	乳幼児の健康に果たす保育者の役割り
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書を読んでおく。	復習：　授業を受けて興味をもった事柄について、文献を使って調べ理解を深める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（４０％）
教科書	『［新版］保育内容健康　－遊びと園生活から育む豊かな心とからだ－』（宮下恭子、大学図書出版）
参考文献	『ライフキャリア発達の視点からの生涯健康と運動遊び』（茗井香保里、推敲舎）
注意事項	単位修得：授業回数の 2/3 以上の出席をした上で、授業内容を理解し事前準備や事後の展開などの学修をもって単位を授与する。

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	きたほら せいいち 北洞 誠一
		授業形態	演習		

授業の内容	保育者として子どもたちの自立をどのように考え、手助けし、援助・働きかけをしていくのかを、健康面から学びます。人の進化、発達過程、食、運動、心に関して学びます。
到達目標	1．子どもにとって健康とは何か？、自分にとって健康とは何か？を考え理解し、考え方の基本を身につけている。

授業計画		
	第１回	健康の考え方、領域健康のねらいと内容
	第２回	ビデオ鑑賞①：「子どもたちは未来」さくらんぼ保育の概要
	第３回	人類の進化の過程
	第４回	乳幼児期の発育発達：身体面
	第５回	乳幼児期の発育発達：精神面
	第６回	遊びの重要性
	第７回	ビデオ鑑賞②：さくらんぼ坊や２
	第８回	前半のまとめ：小テスト①
	第９回	運動遊びの重要性
	第 10 回	生活リズムと生体リズム
	第 11 回	ビデオ鑑賞③：さくらんぼ坊や４
	第 12 回	食育
	第 13 回	食物アレルギー
	第 14 回	ビデオ鑑賞④：さくらんぼ坊や６
	第 15 回	後半のまとめ：小テスト②

授業に対する予習・復習	予習： 課題に対する下調べ、レポート用図書を読む。	復習： レポート提出。

成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（６０％）、レポート（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	『新版保育内容健康』（宮下恭子編、大学図書出版）
参考文献	『嫌われる勇気』（岸見一郎、ダイヤモンド社） 『斎藤公子の保育論』（斎藤公子、築地書館）
注意事項	授業中は出入り自由、受講するしないは自由だが、周りに迷惑をかける行為は注意します。迷惑行為をやめない場合は、教室から退出してもらいます。なるべく積極的前向きに授業に参加することを希望します。欠席した時の授業の情報は、各自で収集するようにお願いします。

科目名	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
		授業形態	演習		

授業の内容	保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から設けられている。人とのかかわりは、人と人との心が深く結び合い、豊かなかかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。 子どもが人とかかわる力を養っていくために保育者はどのような援助や指導を行っていけばよいのかを学ぶ。
到達目標	１．子どもの人間関係について理解している。 ２．子どもを捉える視点を身につけている。 ３．子どもとのかかわり方や援助の仕方を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション、子どもについて考える
	第２回	人とのかかわりとは
	第３回	保育の基本と人とのかかわり
	第４回	人とのかかわりに関する領域「人間関係」
	第５回	人とのかかわりの発達①（0,1,2 歳児）
	第６回	人とのかかわりの発達②（3,4,5 歳児）
	第７回	子どもの生活と人とのかかわり
	第８回	遊びのなかで育つ人とのかかわり
	第９回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人とのかかわり①
	第 10 回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人とのかかわり②（事例検討）
	第 11 回	人とのかかわりを育てる保育の実践
	第 12 回	人とのかかわりの育ちをみる視点①
	第 13 回	人とのかかわりの育ちをみる視点②（事例検討）
	第 14 回	人とのかかわりを育てる保育者の視点（事例検討）
	第 15 回	領域「人間関係」をめぐる諸問題

授業に対する予習・復習	予習：　小テストを行うため、その勉強を行う。	復習：　授業の内容を理解し、実践（実習やボランティア活動等）に活かす。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（４０％）、課題（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書
参考文献	『家庭支援の保育学』（編著　武藤安子・吉川晴美・松永あけみ、建帛社）
注意事項	１．講義を中心に行う。 ２．必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料を配布しながら進める。

科目名	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	なかむら　よういち 中村　陽一
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講は、子どもの成長にとって望ましい「環境」と、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。
到達目標	１．保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、説明できる。 ２．子どもの成長に必要な自然体験と保育者の適切な援助について理解している。 ３．「環境を通した保育」の歴史と人物について、その概要を述べることができる。 ４．「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、自分の考えを述べることができる。

授業計画		
	第１回	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり
	第２回	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」のねらいと内容
	第３回	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎、園庭など）
	第４回	子どもの生活と物的環境②－活動の展開と保育者の援助
	第５回	子どもの生活と自然環境①－自然体験と子どもの生活、季節を感じる保育
	第６回	子どもの生活と自然環境②－園外保育、年間計画と具体的活動
	第７回	動物の飼育－子どもと動物の関わり、飼育動物の特徴と配慮、実践例
	第８回	植物の栽培－子どもと植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例
	第９回	子どもの生活と人的環境－保育者の役割、異年齢児との関わり、地域との関わり
	第 10 回	子どもの生活と社会環境－情報と生活、行事との関わり、地域や施設との関わり
	第 11 回	数量や文字に関する取り扱い－子どもの生活と数、子どもの生活と文字
	第 12 回	保育内容「環境」に関わる指導計画－長期の計画、短期の計画、見通しを持った環境構成
	第 13 回	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ペスタロッチ・フレーベル・倉橋惣三など
	第 14 回	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　授業中に示す重要事項中心に復習すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本）』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社）
注意事項	保育者を目指す者としての自覚と問題意識をもって講義に臨むこと。

科目名	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
		授業形態	演習		

授業の内容	本講では、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の基本的な考え方について学ぶ。また、様々な環境とかかわる子どもの具体的な事例から、子どもの環境とのかかわり方について考え、環境と主体的に関わっていくための保育者の役割について考えていく。
到達目標	１．環境を通して行う保育（教育）について説明することができる。 ２．幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す「環境」のねらいや内容について説明することができる。 ３．身近な環境とのかかわりが子どもにどのような意義があるのかについて考えることができる。 ４．子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えることができる。環境を通して行う保育（教育）について説明することができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション－授業の進め方・参考文献等紹介－
	第２回	保育の基本と保育内容
	第３回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育（教育）について
	第４回	保育における環境について考える①－ビデオ視聴より－
	第５回	保育における環境について考える②－ビデオ視聴より保育環境について班ごとに発表－
	第６回	保育内容・領域について
	第７回	領域『環境』のねらいと内容について
	第８回	身近な環境（人）とのかかわり－子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とは－
	第９回	身近な環境（もの）とのかかわり①－子どもの遊びを広げる玩具について－
	第 10 回	身近な環境（もの）とのかかわり②－アナログゲームで遊んでみよう－
	第 11 回	身近な環境（自然）とのかかわり①－森のようちえんの実践から自然とのかかわりについて考える－
	第 12 回	身近な環境（自然）とのかかわり②－身近な生命や環境のことについて考える－
	第 13 回	身近な環境（自然）とのかかわり③－葉っぱのワークを通して自然の対象との多様な遊びについて考える―
	第 14 回	環境構成について－保育室の環境構成―
	第 15 回	その他の環境について・保育内容「環境」のまとめ

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　前回の内容の復習をして授業に臨むこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本）』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』（豊泉尚美他、圭文社）
注意事項	必要な資料やレジュメは適宜、配布します。配布されたものを１冊にファイリングして毎回の授業の際に持参してください。

科目名	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
		授業形態	演習		

授業の内容	乳幼児の言語発達が、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す方法を学ぶ。乳幼児が楽しく言葉を習得するための児童文化財についての知識や技術を学ぶ。
到達目標	１．乳幼児の言葉の発達過程を理解している。 ２．各月齢での発達と保育士の役割についての知識を習得している。 ３．言葉の発達を促す児童文化財について理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	言葉の発達と環境①：赤ちゃんとのコミュニケーション能力
第３回	言葉の発達と環境②：いないいないばあ論
第４回	言葉の発達と環境③：わらべうたとマザリーズ
第５回	言葉の発達と環境④：1、2 歳児の言葉の発達と保育士の役割
第６回	言葉の発達と環境⑤：3、4 歳児の言葉の発達と保育士の役割
第７回	言葉の発達と環境⑥：5、6 歳児の言葉の発達と保育士の役割
第８回	児童文化財と言葉 手袋人形制作①：デザインを考える
第９回	手袋人形制作②：制作する
第 10 回	聞く・話す：ストーリーテリングとは？
第 11 回	おはなしを語る　演習①：おはなしを聞く
第 12 回	おはなしを語る　演習②：おはなしを選ぶ
第 13 回	おはなしを語る　演習③：おはなしを語る
第 14 回	おはなしを語る　演習④：おはなしの振り返りをする
第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題の準備をする。 おはなしを覚え、語れるように準備する。	復習：　講義のノートをまとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。	

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（５０％）、作品（１０％）、発表（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）
参考文献	その都度紹介する
注意事項	手袋人形の材料を準備すること。（軍手、フェルト等）

科目名	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	いしかわ　のぶまさ 石河　信雅
		授業形態	演習		

授業の内容	乳幼児が言語を獲得していく過程を理解し、保育実践を行うことは保育者が保育を行う上で重要な要素である。幼稚園教育要領等には、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し，相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て，言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。」とある。このことを保育実践の中でいかに具現化していくかを、講義や演習を通して学んでいく。
到達目標	１．乳幼児の言葉の獲得の発達過程を理解している。 ２．乳幼児が言葉を獲得するための保育実践の在り方を理解している。 ３．保育者として「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」を保育実践の中で、いかに具現化していくかを理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：保育内容・言葉の学びの意義を理解する 講義についての受講態度や受講方法について理解し各自の意欲化を図る
	第２回	乳幼児と言葉の獲得 乳幼児が言葉を獲得するシステムについて学び理解する
	第３回	言葉の意義 言葉の持つ特性、機能、働きなどについて学び理解する
	第４回	言葉の発達① 年齢による言葉の発達について学び理解する
	第５回	言葉の発達② 年齢による言葉の発達について学び理解する
	第６回	絵本の仕組み 絵本とは、誰のための本でどの様な仕組みを持っているのかを学び理解する
	第７回	言葉を育てる児童文化① 演習による絵本の読み聞かせ
	第８回	言葉を育てる児童文化② 演習による紙芝居の読み聞かせ
	第９回	言葉を育てる児童文化③ 演習によるストーリーテリング
	第 10 回	言葉を育てる児童文化④ 演習の振り返りにより、保育実践の在り方を考察する
	第 11 回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の領域・言葉について学び理解する
	第 12 回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の領域・言葉と他の領域の関係を学び理解する
	第 13 回	幼稚園・保育園と小学校との連携について 幼稚園・保育園と小学校との連携について、特に言葉を介しての連携を学び理解する
	第 14 回	声の文化と音を食べる乳児 様々な事例から「言葉の力」や「絵本の力」等について学び理解する
	第 15 回	まとめ 常に学び続け、子どもに向き合える保育者となるためにどのようにあるべきかを考察する

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について様々な方法を駆使して学びを深めるようにすること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、レポート（１０％）、発表（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針」（チャイルド本社） ＜原本＞内閣府・文部科学省・厚生労働省
参考文献	講義の中で随時提示
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社の物である必要はない。

科目名	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	たじま　だいすけ 田島　大輔
		授業形態	演習		

授業の内容	乳幼児が言語を獲得していく過程を理解するとともに、保育実践を行う上で重要な要素を持つ子どもの言葉を実際の事例や発達に基づいて理解していく。幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「経験したことや考えたこと等を自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」とされている。このようなことを保育の中でどのように実践として具体化していくかについて講義や演習を通して学び理解していく。
到達目標	１．乳幼児の言葉の獲得に関する発達過程を理解している。 ２．乳幼児が言葉を獲得するためには、具体的にどのような保育実践の在り方があるのかを理解している。 ３．保育を行う人として、領域「言葉」の理解とともに、ねらい内容に基づいた保育実践の在り方を習得している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション・授業の進め方・参加の仕方について・保育内容言葉について学び
	第２回	言葉の発達とは 乳幼児がどのように言葉を獲得していくか理解する
	第３回	言葉の意義 言葉の持つ特性・機能・働き・システムについて理解する
	第４回	言葉の発達① 生まれてから乳児期における言葉の発達
	第５回	言葉の発達② 乳児から幼児期における言葉の発達
	第６回	絵本について 児童文化としての絵本についての理解
	第７回	言葉を育てる児童文化① 演習　絵本
	第８回	言葉を育てる児童文化② 演習　絵本・紙芝居
	第９回	言葉を育てる児童文化③ 演習　二人語り・オスティナート・オノマトペ等を使った語り
	第 10 回	言葉を育てる児童文化④ 演習　みんなで発表①　※グループ
	第 11 回	言葉を育てる児童文化⑤ 演習　みんなで発表②　※グループ
	第 12 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について① 総則・概要から
	第 13 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について② 領域、要領・指針の特性から
	第 14 回	事例から考える言葉についての演習
	第 15 回	まとめ 保育実践と言葉がどのようにつながるか理解する

授業に対する予習・復習		
	予習：　前回の授業を振り返る。	復習：　返却されたリアクションペーパー等をもとに授業の内容を再度理解しておく。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（◯）する／（　）しない 課題（４０％）、発表（３０％）、授業態度・リアクションペーパー（３０％）
教科書	なし （配布資料を使用）
参考文献	講義の中で配布
注意事項	リアクションペーパーを出席票代わりに必ずとっておくこと。

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	たかさき　かずこ 高崎　和子
		授業形態	演習		

授業の内容	保育内容の領域「表現」について、子どもの音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念の講義と具体的な指導方法の演習を行う。理論的な部分の講義の他に実技演習を十分に行い、保育の実践展開のための基礎的な力を養う。
到達目標	１．授業で取りあげた歌やあそびを正確に表現することができる。 ２．豊かな表現力を持って、子どもと共に表現活動ができる。 ３．乳幼児の発達の特徴を理解し、音楽的成長を促すために必要な援助ができる。

授業計画		
	第１回	領域「表現」の捉え方、領域「表現」のねらいと内容について
	第２回	子どもの発達と音楽表現活動について
	第３回	子どもの表現の援助者としての資質について
	第４回	パネルシアター①　保育の中でのパネルシアターの効果的な活用法
	第５回	パネルシアター②　うたを取り入れたパネルシアターの演習
	第６回	季節のうたあそび
	第７回	生活のうた、手あそび
	第８回	絵かきうたの演習
	第９回	絵かきうたの創作・発表
	第 10 回	行事と音楽
	第 11 回	乳児のふれあいうたあそび
	第 12 回	保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について
	第 13 回	手あそびの創作①　テーマの設定・作品の製作
	第 14 回	手あそびの創作②　作品の製作・練習
	第 15 回	発表・まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　毎回の授業内容を復習し、自分のものになっているかを確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）
参考文献	なし
注意事項	１．演習科目であるので出席を重視する。 ２．グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。

科目名	保育内容（造形表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊泉　尚美
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、保育内容「表現」について、主に造形表現の教材研究を行います。 「音楽表現」や「人間関係」等の教科と連携を図りながら、学生がそれぞれ自分の表現力を身につけ、子どもたちと関わることができるように支援していきます。
到達目標	１．作品の完成まで見通しを立てて、丁寧に制作することにより、造形的な技術を身につけている。 ２．パペットやパネルシアターなど、制作した作品を使って発表を行い、実習のさい子どもの前でのびのびと表現することができる。また、その作品を通して子どもたちとよく関わることができる。

授業計画		
	第１回	「表現」について考える・保育者の表現力の必要性について
	第２回	自己紹介グッズの制作①　各自準備した素材を使ってデザインする
	第３回	自己紹介グッズの制作②　作品を完成する
	第４回	自己紹介グッズを使って発表
	第５回	造形表現の教材研究－パネルシアターについて－
	第６回	パネルシアター制作①　作品を決める
	第７回	パネルシアター制作②　下絵を描く
	第８回	パネルシアター制作③　彩色する
	第９回	パネルシアター制作④　彩色する
	第 10 回	パネルシアター制作⑤　彩色する・しかけを作る
	第 11 回	パネルシアター制作⑥　しかけを作る
	第 12 回	パネルシアターの演出・表現の方法を考え、練習する
	第 13 回	パネルシアター発表①
	第 14 回	パネルシアター発表②
	第 15 回	パネルシアター発表③

授業に対する予習・復習		
	予習：　各自制作したい作品を選び、用具を準備してくる。授業の前に制作の計画を立てておくこと。	復習：　決められた時間内に作業が終わらない場合は、持ち帰って制作を行い、作品を期限までに提出する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 作品（４０％）、発表（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし
参考文献	授業の中で随時紹介
注意事項	１．制作に要する材料費は自己負担とする。 （尚、パネルシアター用Ｐペーパーは、授業開始後一括購入し、800 円を徴収する。） ２．作品の提出期限を厳守すること。

科目名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	たかさき　かずこ 高崎　和子
		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの活動は一つの領域に留まらず、さまざまな領域に関連を持ちながら総合的に展開していくものであり、広い視野に立っての理解と実践が必要となる。 この授業では「音楽表現Ⅰ」で学んだ知識・技能を活かし、他領域と連携させながら総合的な表現活動について学んでいく。
到達目標	１．子どもの特性に応じた題材とその展開方法を学び実践に移すことができる。 ２．多くの教材と指導内容を身に付け、子どもに的確な援助をすることができる。 ３．一つのテーマを他領域と関わりながら工夫して展開することができる。

授業計画		
	第１回	授業のねらいや進め方について
	第２回	新しい子どものうたあそび①　季節のうたあそび
	第３回	新しい子どものうたあそび②　じゃんけんあそび
	第４回	新しい子どものうたあそび③　ふれあいあそび
	第５回	新しい子どものうたあそび④　身体あそび
	第６回	外国のあそびうた
	第７回	行事と音楽
	第８回	リズミカルなうたあそび
	第９回	保育の中におけるリトミックの活用法
	第 10 回	リズム楽器を用いたあそび
	第 11 回	効果音としての音楽の使い方
	第 12 回	総合的な表現活動の研究①　表現形態・テーマの設定・イメージづくり
	第 13 回	総合的な表現活動の研究②　作品の製作
	第 14 回	総合的な表現活動の研究③　総合練習
	第 15 回	発表・まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　毎回の授業内容を復習し、自分のものになっているかを確認すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、発表（３０％）実技（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子、カワイ出版）
参考文献	なし
注意事項	１．演習科目であるので出席を重視する。 ２．グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。

科目名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊泉　尚美
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子どもの表現意欲を高める望ましい援助のありかたを考えます。 そのために、子どもの興味・関心から出発する「プロジェクト活動」を中心に行いますが、その中でとくに「子どもと自然をむすぶ」ことを大切にしていきます。
到達目標	１．子どもの発達に即した造形活動の指導計画が立案できる。 ２．子どもの興味・関心から出発したテーマをもとに、グループで共同して制作し、表現することができる。 ３．この授業内容が、他の保育内容（健康・人間関係・言葉・環境）と密接につながっていることを理解している。

授業計画		
	第１回	授業のねらいや進め方について
	第２回	造形活動の指導計画①　自然素材を使って
	第３回	造形活動の指導計画②　自然のなかのモティーフ
	第４回	造形活動の指導計画③　コラージュ技法による表現
	第５回	子どもの表現について　－描画を中心に－
	第６回	レッジョ・エミリアの幼児教育　－プロジェクト・アプローチについて－
	第７回	プロジェクトのテーマについて
	第８回	プロジェクト活動の進め方を話し合う
	第９回	制作①　各グループで決めたテーマに沿ったデザインをする
	第 10 回	制作②　話し合いを続けながら、テーマに沿った作品を作る
	第 11 回	制作③　同上
	第 12 回	制作④　作品を完成する
	第 13 回	ドキュメンテーションを作成①　グループで制作した作品についてまとめ、発表の準備をする
	第 14 回	ドキュメンテーションを作成②　同上
	第 15 回	グループごとにプロジェクトを振り返り、発表する

授業に対する予習・復習	予習：　制作過程で必要となる素材や道具、資料等についてグループでよく準備しておくこと。	復習：　制作・発表に向けて、グループで話し合ったことを振り返っておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（１０％）、作品（３０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	『地球市民を育てる　～子どもと自然をむすぶ～』（豊泉尚美・森下英美子、圭文社）
参考文献	『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カースン、新潮社） 『子どもたちの１００のことば』（レッジョ・チルドレン編、学習研究社）他
注意事項	プロジェクト活動のための素材、道具類は、教員の方で一部用意するが、その他は各グループで適宜用意すること。

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
		授業形態	演習		

授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。
到達目標	１．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ２．生活態度や生活技術を身につけている。 ３．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	保育指導方法とは
	第３回	生活する力を育む保育方法
	第４回	保育の環境と生活技術
	第５回	子どもと集団指導
	第６回	5歳児の発達と遊び
	第７回	5歳児の保育指導方法
	第８回	4歳児の発達と遊び
	第９回	4歳児の保育指導方法
	第10回	3歳児の発達と遊び
	第11回	3歳児の保育指導方法
	第12回	2歳児の遊びと保育方法
	第13回	0・1歳児の遊びと保育方法
	第14回	発表
	第15回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　日常生活のなかで保育を関連づける。様々なことに興味関心をもち、創造力、発想力を身につける。	復習：　授業内で終了しなかった内容は、必ず完成させる。各自内容のまとめを行い、ファイリングする（実習での資料になるよう整理すること）。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（２０％）、作品（１０％）、発表（１０％）、実技（１０％）、授業態度（３０％）
教科書	保育所保育指針、幼稚園教育要領
参考文献	なし
注意事項	１．実技を行うため、忘れ物に注意すること。 ２．教育・保育所実習を視野に入れ授業を展開していくため、欠席しないこと。 ３．提出物が多くなるため、期限を守り取り組むこと。

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	きたの さだと 喜多濃　定人
		授業形態	演習		

授業の内容	これまで得てきた知識や理論を、どの様にしたら保育実践に活かせるのかを実践的に学ぶ。 模擬保育、ロールプレイ、ディスカッションを通し自己の課題や強みを知り、保育者としての専門性を高める更なる学びにつなげて行けるようにする。 社会人としての基礎的なマナーを身につける学びを実践的に行う。
到達目標	１．幼児期の子どもが育つ家庭や社会背景の現状理解をしている。 ２．環境を通した保育や、遊びを通しての総合的な指導について理解している。 ３．子ども達を引き付ける保育技術（自分の強み）を身につけている。 ４．保護者対応、職員との話し合いの方法を身につけている。

授業計画		
	第１回	後期オリエンテーション　　光輪会の紹介
	第２回	幼児期の子どもが育つ社会背景の現状理解
	第３回	年齢に応じた絵本の選び方と読み聞かせ
	第４回	年齢に応じた絵本の選び方と読み聞かせ（模擬保育実践）
	第５回	年齢に応じた、春夏秋冬の折り紙制作を考える（グループごとに制作、発表）
	第６回	子どもを引き付ける保育技術
	第７回	子どもを引き付ける保育技術（制作活動）
	第８回	子どもを引き付ける保育技術（模擬保育実践）
	第９回	環境を通した保育、遊びを通した指導とは
	第 10 回	１２ヶ月の行事、保育・指導計画を考える
	第 11 回	１２ヶ月の行事、保育・指導計画を考える（グループ案ワールドカフェ方式発表）
	第 12 回	保護者対応と職員間の連携（主幹保育教諭によるゲストスピーカー）
	第 13 回	保護者対応と職員間の連携（ロールプレイング）
	第 14 回	発表
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　次回の講義内容について考えてくる事（課題）を日々の生活の中で関連づけ、意見をまとめ講義に臨む。	復習：　授業内で終了しなかった内容は、必ず完成させる。保育技術に関しては日々の実践の中でチャレンジする。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート・課題・作品（３０％）、発表（１０％）実技（１０％）、授業態度（５０％）
教科書	なし
参考文献	『実習に役立つ保育技術』（百瀬ユカリ、創成社） ※予習として、毎回の課題に活用できる、参考文献、参考資料を各自でみつけてくること
注意事項	１．講義形式と、演習形式を折り混ぜながら講義を進めていきます。自身の保育教材を作成します。シラバスの次回の講義に必要な資料、教材等を忘れずに持参すること。 ２．実習時期に向けた模擬保育や、保護者、職員間のコミュニケーション能力の向上を目指した実践授業を実施する。

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	榊原（さかきばら）　久子（ひさこ）
		授業形態	演習		

授業の内容	これまで得てきた知識や理論を、どのようにしたら保育実践に活かせるのかを実践的に学ぶ。 また、模擬保育等の実践を通して、保育現場における応用力を身につけられる理論と実践をつなぐ学びをおこなうと共に、自己の課題や強みを意識し、保育者としての専門性を高める更なる学びにつなげていけるようにする。 教育実習に向けての知識や態度、社会人としての基礎的なマナーを身につける学びを実践的におこなう。
到達目標	１．幼児期の子どもが育つ家庭や社会の背景の現状理解を深め、その年齢や個々の発達段階に応じた援助の在り方を理解している。 ２．幼児教育の基本的な考え方を学ぶと共に、環境を通した保育や、遊びを通しての総合的な指導について理解している。 ３．実習に際し、社会人としての言葉の使い方、常識ある態度、状況に応じた行動力を身につけている。

授業計画

第１回	前期オリエンテーション コミュニケーションワーク（保育実技）	第16回	後期オリエンテーション 3・4・5歳児の遊びのと心の育ちについて
第２回	幼児教育の目的の理解・子どもたちを取り巻く現代社会の理解（保育実技）	第17回	運動遊び　3歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第３回	3歳児の発達と遊び　ねらい・内容	第18回	運動遊び　4歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第４回	4歳児の発達と遊び　ねらい・内容	第19回	運動遊び　5歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第５回	5歳児の発達と遊び　ねらい・内容	第20回	木の実や葉っぱなど自然を活用した製作活動　3歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第６回	ビデオ学習　3・4・5歳児保育 保育者のおこなっている環境構成や、子どもへの言葉がけ、指導ならびに援助の仕方等、映像を通して観察し、見立てをおこなう。意見交換と発表。 ※３回にわたっておこなう	第21回	木の実や葉っぱなど自然を活用した製作活動　4歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第７回		第22回	木の実や葉っぱなど自然を活用した製作活動　5歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第８回		第23回	身近な廃材を活用した製作・保育活動　3歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第９回	模擬保育　3歳児 模擬保育内容の検討と指導案の作成	第24回	身近な廃材を活用した製作・保育活動　4歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第10回	模擬保育　3歳児 各グループによる模擬保育の実践、発表と振り返り	第25回	身近な廃材を利用した製作・保育活動　5歳児 年齢や発達に応じた環境構成と保育内容の検討と実践
第11回	模擬保育　4歳児 模擬保育内容の検討と指導案の作成	第26回	異年齢保育を想定した保育内容の検討と指導案の作成 （コーナー遊び）
第12回	模擬保育　4歳児 各グループによる模擬保育の実践、発表と振り返り	第27回	異年齢保育を想定した保育の実践。 （コーナー遊び）
第13回	模擬保育　5歳児 模擬保育内容の検討と指導案の作成	第28回	異年齢保育を想定した保育内容の検討と指導案の作成 （お店屋さんごっこ）
第14回	模擬保育　5歳児 各グループによる模擬保育の実践、発表と振り返り	第29回	異年齢保育を想定した保育の実践 （お店屋さんごっこ）
第15回	まとめ	第30回	まとめ　これまでの取り組みの振り返り

授業に対する予習・復習	予習：　次回の講義内容について、自分で資料や参考文献を見つけ、講義に持参する。	復習：　振り返りのレポートを記載する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（１０％）、発表（２０％）、授業態度（５０％）	
教科書	なし	
参考文献	予習として、毎回の課題に活用できる、参考文献、参考資料を各自でみつけてくること	
注意事項	１．参加型の実践授業です。毎回提示される教材を必ず忘れずに持参すること。 ２．予習で探してきた文献、参考テキストを毎回必ず持参すること ３．実習時期に向けた模擬保育（導入、手あそび、絵本や紙芝居等の選択、製作、具体的な子どもへの言葉がけ、運動遊び等）を実施する。	

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	おかもと よしこ 岡本 良子
		授業形態	演習		

授業の内容	地域の子育て支援としての乳児保育の役割と保育の実践とを結びつけて理解できることを目的とする。 授業では、まず、乳児期の成長発達と援助について乳児保育の基礎的知識を習得する。次に、乳児保育の歩みや乳児保育が必要となる背景を理解し、さらに関係機関の役割や連携の必要性について学ぶ。
到達目標	１．乳児期の子どもの成長発達を促すための基礎的な保育方法を身につけている。 ２．乳児保育の歴史の学習により社会保障としての乳児保育の意義を理解している。 ３．現在の子育て社会の問題から乳児保育の必要性を理解している。 ４．様々なソーシャル・サポートとの連携に基づいた子育て支援としての保育士の役割を理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 乳児保育とは何か	第 16 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ③精神的発達と援助：見立て遊び
第２回	乳児の成長発達 保育園の１日	第 17 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ④精神的発達と援助：言葉
第３回	遊び 妊娠～誕生	第 18 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ①食事
第４回	新生児の成長発達と援助 ①成長発達の特徴	第 19 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ②排泄
第５回	新生児の成長発達と援助 ②保育内容と適切な援助	第 20 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ③健康
第６回	１～４か月児の成長発達と援助 形態的成長、機能的発達・精神的発達と援助	第 21 回	社会保障としての乳児保育の変遷 ①戦後の社会福祉基礎構造の確立
第７回	５～１２か月児の成長発達と援助 ①形態的成長	第 22 回	社会保障としての乳児保育の変遷 ②高度経済成長、社会福祉基礎構造改革
第８回	５～１２か月児の成長発達と援助 ②機能的発達と援助	第 23 回	乳児保育の必要性 ①親になるということ
第９回	５～１２か月児の成長発達と援助 ③精神的発達と援助	第 24 回	乳児保育の必要性 ②母子保健活動：妊娠期
第 10 回	１歳児の成長発達と援助 ①形態的成長、機能的発達と援助	第 25 回	乳児保育の必要性 ③母子保健活動：産後
第 11 回	１歳児の成長発達と援助 ②精神的発達と援助：対人関係	第 26 回	乳児保育の必要性 ④虐待の予防：適切なかかわり
第 12 回	１歳児の成長発達と援助 ③精神的発達と援助：言葉	第 27 回	乳児保育の必要性 ⑤虐待の予防：育児不安の原因
第 13 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ①形態的成長、機能的発達と援助	第 28 回	乳児保育の必要性 ⑥虐待の予防：育児不安への対策
第 14 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ②精神的発達と援助：自我の芽生え	第 29 回	乳児保育の必要性 ⑦虐待の予防：要補完
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	１年間の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　日常生活の場やニュース・新聞等で子育てに関する出来事に関心を持ち、問題意識を持って授業にのぞむこと。	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（７０％）、レポート（３０％）
教科書	なし （授業にてプリント配布する）
参考文献	『新・乳児の生活と保育』（松本園子　編著、ななみ書房）、 『乳児の発達と保育―遊びと育児』（園と家庭を結ぶ「げんき」編集部、エイデル研究所） 『乳児保育』（CHS 子育て文化研究所、萌文書林）
注意事項	授業中の私語、携帯電話等の使用、飲食、化粧等講義に支障となる行為は禁止する。

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	たかねざわ　あきら 高根沢　昭
		授業形態	演習		

授業の内容	乳児保育に必要な基礎知識・技術を習得し、保育所、他の保育施設における保育の現状について理解する。子ども達の最善の利益を目指す保育者としての資質を身につけるために保育現場の状況を踏まえより実践的な授業を行っていく。授業では歌や手遊び・乳児の玩具や遊び方を紹介したり保育現場の事例なども取り入れたりしていく。
到達目標	１．乳児保育の意義、心身の発育・発達の特徴の基礎を学び、個々に合わせた保育の大切さを理解している。 ２．３歳未満児の発育・発達をふまえ、保育者としての具体的な援助方法を理解している。 ３．集団における保育や子どもを取り巻くより良い環境づくりについて考えることができる。 ４．子どもとその家族に対する支援や地域の子育て支援のあり方について考えることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション 乳児保育とは何か・乳児保育の歴史	第 16 回	乳児の環境①（環境設定） 環境を整える意味と効果
第２回	保育所の役割と保育者の役割 社会の変化と保育者に求められるもの	第 17 回	乳児の環境②（人的環境） 設定するだけの環境では子ども達は育たない
第３回	保育所における乳児保育① 乳児保育の位置づけとその意味	第 18 回	乳児の遊び① 年令に適した玩具とその遊び方
第４回	保育所における乳児保育② 保育所の現状と課題	第 19 回	乳児の遊び② 歌や手遊び
第５回	その他の乳児保育 乳児保育の場	第 20 回	乳児の遊び③ 保育の引き出しとその中身
第６回	乳児の発達と保育内容① 誕生～６カ月　６カ月～１歳３カ月	第 21 回	保育課程と指導計画
第７回	乳児の発達と保育内容② １歳３カ月～２歳　２歳児	第 22 回	指導計画の作成と個別計画の必要性
第８回	身体の発達と保育① 身体を動かす	第 23 回	乳児保育と記録の考え方① 児童票と保育日誌
第９回	身体の発達と保育② 手を使う	第 24 回	乳児保育と記録の考え方② 連絡帳の書き方の説明と記入（演習）
第 10 回	基本的生活習慣と保育① 食事①・離乳食について	第 25 回	乳児保育と記録の考え方③ 連絡帳の書き方の検証とアドバイス（演習）
第 11 回	基本的生活習慣と保育② 食事②・乳児の食事の問題点について	第 26 回	乳児保育における連携① 発達の連続性の保障・家庭との連携
第 12 回	基本的生活習慣と保育③ 排泄	第 27 回	乳児保育における連携② 職員間の連携・協働
第 13 回	基本的生活習慣と保育④ 睡眠その他の生活習慣	第 28 回	乳児保育における連携③ 地域や学校との連携・子育て支援の場
第 14 回	対人関係の発達と保育① ことば	第 29 回	保育現場に立つということ どんな保育者を目指すのか・保育現場の実情と展望
第 15 回	対人関係の発達と保育② ひととのかかわり	第 30 回	乳児保育のまとめ 子ども達との関係性が支える保育の根幹

授業に対する予習・復習	予習：　次回の授業内容についてテキスト等で事前学習をしてくること。 自分の身の回りの保育に関するニュース等に関心を持ち、まとめておく。	復習：　授業の中で投げかけられた問題や課題について各自が考えてみるようにする。 授業中に指摘した事柄や用語などを調べてまとめておく。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 筆記試験（３０％）、レポート（１０％）、課題（１０％）、授業態度（※授業の理解度も含む）（５０％）	
教科書	『乳児の生活と保育』（松本園子　編著、ななみ書房）	
参考文献	『乳児保育』（加藤敏子　編著、萌文書林）、 『乳児保育新版』（増田まゆみ　編著、北大路書房） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省編、フレーベル館）	
注意事項	１．課題の中に授業の終わりに提出するリフレクションシートの評価も含める。 ２．通年を通した科目なので授業へ取り組む姿勢を評価していく。	

科目名	指導技術	単位数	2	担当教員	しかと かずのり　しまだ さだこ 鹿戸一範・嶌田貞子
		授業形態	演習		

授業の内容	〈音楽〉　多くの保育現場で実際に使用されている「生活のうた」を中心に、ピアノ伴奏、及び弾き歌いの技術を学ぶ。また、コードネームの基礎を学び、簡単な伴奏づけを実践する。 〈保育実技〉保育現場で実践されている様々な保育方法や指導技術について調べて理解し、体験する。また、個人で、あるいはグループで協力して保育実技について学び、制作し実践できるようにする。
到達目標	〈音楽〉　１．幼稚園教諭や保育士として現場で必要となる様々な「生活のうた」の弾き歌いができる。 ２．コードネームを用いた簡単な伴奏づけができる。 〈保育実技〉１．子どもの遊びを援助・発展させる様々な保育方法や指導技術を調べ、体験し理解している。 ２．保育現場で実践する際の準備や配慮点を知り、実際に制作・練習して、実践できる。

授業計画

第１回	〈音楽〉 オリエンテーション（講義内容・履修上の注意等）	第 16 回	〈保育実技〉　オリエンテーション（授業の進め方、評価方法等）　乳幼児期を振り返って
第２回	ハ長調の主要三和音とコードネーム① 生活のうた「おはよう」	第 17 回	手遊び① 子どもが喜ぶ手遊び・わらべ歌を体験してみよう
第３回	ハ長調の主要三和音とコードネーム② 生活のうた「おはようのうた」	第 18 回	手遊び② 子どもの発達段階に適した手遊びを調べ、理解する
第４回	ハ長調の主要三和音とコードネーム③ 生活のうた「夜が明けた」	第 19 回	素話・絵本・紙芝居① 持ち方、読み方、環境設定について学ぶ
第５回	ハ長調の主要三和音とコードネーム④ 生活のうた「おかたづけ」「おへんじハイ」	第 20 回	素話・絵本・紙芝居②　グループフィールドワーク 子どもの年齢や季節・行事に適した素材を選ぶ
第６回	検定①　「おはよう」「おはようのうた」「夜が明けた」「おかたづけ」「おへんじハイ」	第 21 回	新聞紙で遊ぼう① 身近な素材（新聞・広告紙）を使用して制作する
第７回	ヘ長調の主要三和音とコードネーム 生活のうた「おべんとう」	第 22 回	新聞紙で遊ぼう② 季節や発達に合う運動遊び、ゲームを調べて体験する
第８回	ト長調の主要三和音とコードネーム 生活のうた「おかえりのうた」	第 23 回	様々な保育技術があることを理解する （ペープサート、軍手人形、エプロンシアター等）
第９回	三和音の種類とその他のコードネーム① 生活のうた「おむねをはりましょ」	第 24 回	積み木と粘土（DVD 視聴） フレーベルの積み木や恩物について調べる
第 10 回	三和音の種類とその他のコードネーム② 生活のうた「おやつ」	第 25 回	折り紙を使って① 季節や行事、遊びに活用できる物を折る
第 11 回	検定②　「おべんとう」「おかえりのうた」「おむねをはりましょ」「おやつ」	第 26 回	折り紙を使って② 保育現場で実践されている切り紙を体験する
第 12 回	コードネームを用いた伴奏づけ① 生活のうた「さよならのうた」	第 27 回	折り紙を使って③ 紙で織ってみよう
第 13 回	コードネームを用いた伴奏づけ②　生活のうた「おててをあらいましょう」「歯をみがきましょう」	第 28 回	作って発表してみよう① オリジナルの物を制作して発表する
第 14 回	コードネームを用いた伴奏づけ③ 生活のうた「こもりうた」	第 29 回	作って発表してみよう② 他者の発表もよく見て、感想を記録する
第 15 回	検定③　「さよならのうた」「おててをあらいましょう」「歯をみがきましょう」「こもりうた」	第 30 回	まとめ 保育実技を実施する上で、大切なことをまとめよう

授業に対する予習・復習	予習：　〈音楽〉実習や将来の現場での活動をイメージして、授業時間以外での個人練習は必ず行い、課題曲の弾き歌いを確実にできるようにする。 〈保育実技〉 発表準備の為に鏡の前等で、表情を確認しながら繰り返し練習する。	復習：　〈保育実技〉 授業での体験を振り返って記録・制作し、次回の発表に活かせるよう練習する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 〈音楽〉　レポート（１０％）、実技（６０％）、授業態度（３０％） 〈保育実技〉レポート（２０％）、課題（２０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）	
教科書	〈音楽〉　なし（授業時にプリントを配布） 〈保育実技〉『保育方法の基礎』（柴崎正行編・嶌田貞子他著、わかば社）	
参考文献	〈保育実技〉『フレーベルの恩物で遊ぼう－絵画・造形編－』（玉成恩物研究会編著、フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）	
注意事項	〈保育実技〉 授業内で保育実技の実践をするので、教科書を始め＜折り紙、のり、はさみ、定規、セロテープ、ホチキス、色鉛筆(クーピー)等＞を持参する事。授業で指示するが、A4 のクリアファイルを用意する事。	

科目名	指導技術	単位数	2	担当教員	みやばやし　よしこ 宮林　佳子
		授業形態	演習		

授業の内容	幼児の発達段階に沿った、興味・関心を引き出せるような活動方法を身につける。 各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場をイメージしながら指導技術を習得する。 未分化な子ども達にとって園生活は関係性と連続性が求められる子ども達の感性を広げていけるよう物を作る描くということを中心に様々な保育技術を習得する。 子ども達一人ひとりの気持ちに寄り添える言葉や態度を身につけていく。
到達目標	１．子どもの発達の特徴を知ると共に、興味・関心を捉える力を身につけている。 ２．子どもに適した絵本やおはなしを選ぶ力を身につけている。 ３．子どもの気持ちや表現に寄り添う力を身につけている。 ４．協力しながら進めることで保育者としてのあり方を身につけている。

授業計画

第１回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）	第 16 回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）
第２回	保育園の基本的な生活と一日の活動	第 17 回	発達と造形表現の活動のねらいと指導上の留意点
第３回	絵本の世界を楽しみながら想像を広げる	第 18 回	季節別・年齢別教材の作成 ①（切り紙構成① 指人形）
第４回	絵本の選び方	第 19 回	季節別・年齢別教材の作成 ②（切り紙構成②　人体）
第５回	展開と導入について	第 20 回	季節別・年齢別教材の作成 ③（幼児期の特徴的表現）
第６回	第３回～第５回の活動を基に計画を立てる	第 21 回	実習に向けて第 17 回～20 回の授業を基に考え、指導案を作成する
第７回	計画を基に実践発表し自己評価する	第 22 回	計画を基に実践発表し自己評価する
第８回	計画を基に実践発表し学び合う	第 23 回	計画を基に実践発表し学び合う
第９回	集団遊び（ゲーム、ダンス等）	第 24 回	みんなでつくる造形表現（集合制作・共同制作）
第 10 回	紙遊び①（折って遊ぶ）	第 25 回	季節別・年齢別教材の作成① （絵の具での表現：色変え）
第 11 回	紙遊び②（ハサミの使い方）	第 26 回	季節別・年齢別教材の作成② （絵の具での表現：重ね塗り、混色）
第 12 回	乳児期の活動　手作りオモチャ① （手の発達とオモチャの理解）	第 27 回	運動遊び①　理解
第 13 回	乳児期の活動　手作りオモチャ② （手の発達とオモチャの作成）	第 28 回	運動遊び②　実技
第 14 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは（言葉かけ）	第 29 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは（資質向上）
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	一年間の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　毎回授業後、内容をまとめ自分の課題を見つけるようにする。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（３０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書	『絵の具大好き　絶対描きたくなる！幼児の絵画活動 季節別・年齢別題材５０』（宮林佳子、明治図書）	
参考文献	必要に応じて紹介	
注意事項		

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文
		授業形態	講義		

授業の内容	本講義では、幼稚園における「教育相談」について、その内容と方法について学んでいく。内容については幼児期の子どもとその保護者が悩む内容や事例について扱う。また、方法については「クライエント中心療法」などのカウンセリング技法を学ぶ。
到達目標	１．教育相談の定義を理解している。 ２．幼児期の子どもの諸問題を理解している。 ３．幼児期の子育て家庭の悩みを理解している。 ４．相談を受けるための方法を知っている。

授業計画		
	第１回	教育相談とは
	第２回	幼児教育者と教育相談
	第３回	幼稚園教育要領と教育相談
	第４回	相談に関する歴史
	第５回	相談を受けるための基本的考え方
	第６回	クライエント中心療法の理論
	第７回	クライエント中心療法の実践
	第８回	ロールプレイを用いた相談に関する演習
	第９回	子どもの心理的問題
	第 10 回	子どもの発達的問題①（言語障害、知的障害等）
	第 11 回	子どもの発達的問題②（自閉症、ADHD、LD 等）
	第 12 回	保護者の悩み
	第 13 回	具体的な方法の留意点
	第 14 回	相談に関する事例検討
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　心理学・福祉関連の科目を振り返っておくこと。	復習：　本講義で習ったことを実践でいかせるよう整理しておくこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（９５%）、授業態度（　５%）
教科書	なし
参考文献	なし
注意事項	

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	今水（いまみず）　豊（ゆたか）
		授業形態	講義		

授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。 授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。
到達目標	本科目では、以下の３点を達成目標とする。 １．発達を多角的にとらえることができる。 ２．発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる。 ３．相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している。

授業計画		
	第１回	教育相談とは何か①　相談の必要性
	第２回	教育相談とは何か②　相談のながれ
	第３回	子どもの発達の特徴①　発達の表の作成（身体・運動・言語の発達）
	第４回	子どもの発達の特徴②　発達の表の作成（認知・親子関係の発達）
	第５回	子どもの発達の特徴③　発達の表の作成（親子関係の発達）
	第６回	子どもの発達の特徴④　発達の表の作成（社会心理的発達）
	第７回	子どもに見られる発達・心理的問題①　発達障害の実際
	第８回	子どもに見られる発達・心理的問題②　特別支援教育
	第９回	子どもに見られる発達・心理的問題③　養育者の実際
	第 10 回	子どもに見られる発達・心理的問題④　虐待
	第 11 回	子どもに見られる発達・心理的問題⑤　大震災と PTSD
	第 12 回	子どもに見られる発達・心理的問題⑥　心のケアの実際
	第 13 回	相談の実際①　教育相談の意義
	第 14 回	相談の実際②　遊戯療法
	第 15 回	相談の実際③　遊戯療法の実際

授業に対する予習・復習		
	予習：　普段から上記のキーワードに関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：　わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （適宜資料を配布）
参考文献	授業にて適宜紹介
注意事項	１．講義形式で行う。 ２．教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	あおやま　ゆき 青山　有希
		授業形態	講義		

授業の内容	教育相談は、保護者に対して、家庭や園における子どもの問題について、プラスの方向にもっていくアドバイス等を行う実践活動である。本講義では、現場で役に立つ保護者の気持ちに寄り添う教育相談の実践力を身に付ける。
到達目標	１．教育相談の基本を習得している。 ２．保護者が元気に子育てできるようなアドバイス等を習得している。 ３．保護者の気持ちに寄り添うセンスや工夫を習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	親になるということ①　妊娠期
第３回	親になるということ②　出産
第４回	第一子の子育ての意味合い
第５回	発達の凸凹のある子どもの子育て
第６回	障がいのある子どもの子育て
第７回	難しい親への対応①　発達の凸凹のある親
第８回	難しい親への対応②　虐待している親
第９回	教育相談で心がけること
第 10 回	学習到達確認課題
第 11 回	教育相談の支援内容
第 12 回	グループワーク①　親を元気にする支援方法
第 13 回	グループワーク②　子どもを元気にする支援方法
第 14 回	グループワーク③　親子を元気にする支援方法
第 15 回	振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　自分の母子手帳があれば目を通しておく。 保育園・幼稚園時代の連絡帳があれば目を通しておく。	復習：　資料を見て振り返っておく。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（７０％）、授業態度（３０％）	
教科書	なし （適宜資料を配布）	
参考文献	『子どものこころを育てる「ひとこと」探し』（菅野　純、ほんの森出版） 『子どもの問題と「いまできること」探し』（菅野　純、ほんの森出版）	
注意事項	１．積極的に自分の感じ考えたことを発言することを期待する。 ２．体験学習も行うので「楽しみながら」取り組むことを期待する。	

科目名	教育実習	単位数	4	担当教員	おおくまみかこ　しまださだこ　きたざわあきこ 大熊美佳子・嶌田貞子・北澤明子
		授業形態	実習		

授業の内容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必須科目である。これまで学んできた学校での理論を総合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。また、前期実習・後期実習を通し、幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについて理解し、幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習熟していく。	
到達目標	１．教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができる。 ２．前期・後期実習を通して、子どもの実態把握と子ども理解を深められる。 ３．幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を総合的に理解している。 ４．実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識している。	
授業計画	○前期教育実習：見学・観察・参加実習 幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて、見学・観察をする。また、子どもの実態や保育内容、保育者の職務等について理解を深める。具体的には、以下の５つのねらいを持ち10日間の実習を行う。 （1）一日の保育の流れを理解する （2）子どもの生活実態と活動の様子を理解する （3）保育者の職務内容や保育活動について理解する （4）保育者としての自覚・態度を確認する （5）今後の学習の目標や自己課題について確認する	○後期教育実習：参加・指導実習 前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術を基に、幼稚園教育の場を総合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより、保育者論や指導技術の向上を図る。具体的に以下の３つのねらいを持ち10日間の実習を行う。 （1）幼稚園の機能や活動内容を理解する （2）大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する （3）社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識する
授業に対する予習・復習	予習：　実習に必要な教材研究やピアノの練習を行うこと。また、幼児教育研究の授業をしっかり受け、必要な準備を行うこと。	復習：　実習日誌の記入を行いながら日々の学びのまとめや反省、振り返りを行うこと。また、その繰り返しのなかで自己の課題を明確化していくこと。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 実習課題（２０％）、実習日誌（３０％）、実習施設による評価（５０％）	
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）	
参考文献	授業内で紹介	
注意事項	１．「幼児教育研究」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心掛けること。 ２．実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合には、「実習派遣規制」に基づき実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。	

科目名	幼児教育研究	単位数	1	担当教員	おおくまみかこ　しまださだこ　きたざわあきこ 大熊美佳子・嶌田貞子・北澤明子
		授業形態	実習		

授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期・後期実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持つ。 ２．教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．２回の実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。

授業計画

第１回	幼稚園教育の意義・目的	第 16 回	後期実習の目的・心得
第２回	教育実習の目的理解	第 17 回	実習手続き書類の作成指導（調査書について）
第３回	前期実習の目的（参加・観察実習）	第 18 回	実習課題の説明・作成
第４回	前期実習参加の心得	第 19 回	部分・責任実習の留意点
第５回	実習手続き書類の作成指導（配当資料について）	第 20 回	実習日誌の作成指導①－保育の記録・振り返り－
第６回	実習手続き書類の作成指導（調査書について）	第 21 回	実習日誌の作成指導②－後期実習での視点について－
第７回	オリエンテーションについて	第 22 回	指導計画案作成指導①－指導案とは－
第８回	持ち物・身だしなみについて	第 23 回	指導計画案作成指導②－遊びのカードの作成－
第９回	幼稚園の一日の流れと実習日誌の書き方	第 24 回	指導計画案作成指導③－指導案作成（製作活動）－
第 10 回	参加・観察実習の留意点	第 25 回	指導計画案作成指導④－指導案作成の留意点の説明－
第 11 回	実習日誌の作成指導①－実習園の概況・環境等－	第 26 回	指導計画案作成指導⑤－指導案作成（ゲーム・異年齢）－
第 12 回	実習日誌の作成指導②－保育の記録・振り返り－	第 27 回	オリエンテーション報告書・実習報告の作成
第 13 回	実習課題についての説明	第 28 回	実習の総括①（振り返り・自己評価）
第 14 回	直前指導・まとめ	第 29 回	実習の総括②（グループワーク）
第 15 回	実習評価と反省	第 30 回	実習の総括③（課題の明確化）

授業に対する予習・復習	予習：　実習に向けての教材研究を行うこと。次回の授業までの宿題、作成資料を行うことで予習・復習となるためしっかり目を通し遅れのないようにすること。	復習：　次回の授業までの宿題、作成資料を行うことで予習・復習となるためしっかり目を通し、遅れのないようにすること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）	
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)	
参考文献	必要があれば授業内で紹介	
注意事項	１．実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。 ２．実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。	

科　目　名	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	とよいずみ　まるはし　おおくま　しまだ 豊泉・丸橋・大熊・嶌田
		授業形態	演習		

授業の内容	これまでの教科に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な以下の４つの事項を中心に、学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 幼児理解や学級経営等に関する事項　④ 教科・保育内容等の指導力に関する事項 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習のつながりを理解し、保育を総合的にとらえることができるよう演習を展開する。
到達目標	幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につける。 １．誠実で責任感が強く、社会人としての良識をわきまえた言動ができる。 ２．幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 ３．自分で積極的に課題を見つけて考えることができる。 ４．他の人たちと対話を重ね、互いの良さを生かして協働する姿勢を身につけている。 ５．子どもを取り巻く環境や、子どもを巡る様々な社会問題の理解を通して、多様なものの見方ができる。 ６．自然と生命を大切にする心をもち、子どもと共に育ち合う姿勢を身につけている。 ７．他者の表現を認め、自らものびのびと自己表現をすることができる。

授業計画		
	第１回	保育・教職実践演習（幼稚園）の授業の進め方について・これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）
	第２回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について①（講義・レポート）
	第３回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について②（グループ討議）
	第４回	学級経営、学級経営案の作成について（講義・レポート）
	第５回	幼児の理解について（講義・グループ討議）
	第６回	組織の一員としての自覚（講義・レポート）
	第７回	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について（グループ討議・ロールプレイング）
	第８回	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について（講義・レポート）
	第９回	感性と認識についてのフィールドワーク　（野外実習）
	第 10 回	保育内容「表現」のグループワーク（野外実習の振り返りを含む）
	第 11 回	音楽表現活動の鑑賞
	第 12 回	子どもの興味・関心から出発するプロジェクト活動の理解（講義・レポート）
	第 13 回	子どもの興味・関心から出発するプロジェクト活動のドキュメンテーション（グループワーク）
	第 14 回	ドキュメンテーションをもとにしたグループ発表
	第 15 回	授業全体の振り返り・資質能力の確認、まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　授業前に課される課題の準備をしておくこと。	復習：　つながりのある授業を行っていくので、授業内容をそのつど確実に理解するよう振り返ること。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（２０％）、ドキュメンテーション（２０％）、発表（３０％）、授業態度（４０％）
教科書	必要に応じて資料を配布
参考文献	必要に応じて随時紹介
注意事項	グループ討議やドキュメンテーション、制作、発表等を行い、協働して学ぶことを大切にするため、主体的に演習に取り組むこと。

科目名	保育所実習Ⅰ	単位数	2	担当教員	まるはしさとみ　とみやまふとし　おぐちすぐる 丸橋聡美・富山大士・小口偉
		授業形態	実習		

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち前期実習が保育所実習Ⅰとなる。（後期実習は、保育所実習Ⅱとして実施） 第１学年（二部は第２学年）に１２日間実施。
到達目標	１．保育所の生活に参加し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもに対する理解ができている。 ２．保育所の役割や機能、職務倫理について学び、理解している。 ３．日々の保育の展開、保育の計画や記録の仕方を体験し、実践できる。 ４．保育士としての業務内容を体験し、理解している。

授業計画		
	第１回	実習施設について理解する
	第２回	保育の一日の流れを理解し、参加する
	第３回	子どもの観察とその記録より子どもを理解する
	第４回	子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助やかかわりを学ぶ
	第５回	保育の計画や子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ
	第６回	子どもの生活や遊びと保育環境を学ぶ
	第７回	子どもの安全及び疾病予防への配慮について理解する
	第８回	保育課程の意義を理解しそれに基づく指導計画を学ぶ
	第９回	記録に基づく省察や自己評価を行なう
	第 10 回	子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ
	第 11 回	保育士の業務内容や職員間の役割分担と連携について理解する
	第 12 回	保育士の役割と職業倫理を学ぶ
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：　実習で必要とされる保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。	復習：　実習後に自身を振り返り、次の実習に向けて自己課題の達成に努める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 実習課題（２０％）、実習日誌（３０％）、実習施設による評価（５０％）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（仮題）（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	１．「保育所実習研究Ⅰ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。 ２．実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合、本学の「実習派遣規制」によって実習の停止、中止等が行われる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	施設実習	単位数	2	担当教員	しのはらあみ　みよしちから 志濃原亜美・三好 力
		授業形態	実習		

授業の内容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。
到達目標	１．居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活を理解している。 ２．居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解している。 ３．居住型及び通所型児童福祉施設等の機能を理解している。

授業計画		
	第１回	実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解）
	第２回	実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解）
	第３回	実習施設の人的・物的環境の理解①　（施設職員の役割・協働について）
	第４回	実習施設の人的・物的環境の理解②　（施設の物的環境について）
	第５回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握）
	第６回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助）
	第７回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務）
	第８回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割）
	第９回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携）
	第 10 回	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解
	第 11 回	反省会・まとめ①
	第 12 回	実習施設の役割
	第 13 回	実習施設の社会的機能
	第 14 回	これからの施設の在り方
	第 15 回	反省会・まとめ②

授業に対する予習・復習	予習：　毎日提出する実習日誌の目標を考える。	復習：　日々の実習の記録及び反省。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 実習（８０％）、レポート（１０％）、実習課題（１０％）
教科書	『保育福祉小六法 2017 年版』（保育福祉小六法編集委員会、みらい）
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。
注意事項	１．「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 ２．実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	担当教員	まるはしさとみ　とみやまふとし　おぐちすぐる 丸橋聡美・富山大士・小口偉
		授業形態	実習		

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち後期実習が保育所実習Ⅱとなる。 第２学年（二部は第３学年）に１２日間実施。
到達目標	１．保育所の保育を実際に実践し、子ども理解、かかわりの視点の明確化、指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を修得している。 ２．子どもの保育及び保護者支援、地域の子育て家庭への支援について総合的に学び、保育所の役割や機能について理解している。 ３．後期実習は、主に参加・責任実習である。前期実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的に保育活動に参加し、保育の理論と技能を総合的に体験し実践できる。 ４．自らの保育観や目標を確立する。

授業計画		
	第１回	保育所の社会的役割と責任を学ぶ
	第２回	養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ
	第３回	子どもの心身の状態や活動の観察をする
	第４回	保育士等の動きや実践の観察をする
	第５回	保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ
	第６回	環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育を理解する
	第７回	入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ
	第８回	地域社会との連携を学ぶ
	第９回	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する
	第 10 回	作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行なう
	第 11 回	多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する
	第 12 回	保育士としての自己の課題を明確化する
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習			
	予習：	保育所実習Ⅰ後に自身を振り返り、保育所実習Ⅱまでに自己課題の達成に努める。	復習：　保育者に必要な保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 実習課題（２０％）、実習日誌（３０％）、施設による評価（５０％）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（仮題）（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	１．「保育所実習研究Ⅱ」で履修した内容を実践すると同時に、実習先の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。 ２．実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合、本学の「実習派遣規制」によって実習の停止、中止等が行われる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅰ	単位数	1	担当教員	まるはしさとみ　とみやまふとし　おぐちすぐる 丸橋聡美・富山大士・小口 偉
		授業形態	演習		

授業の内容	この保育所実習研究Ⅰは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育所実習の意義を高めるものである。
到達目標	１．保育所実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題が明確になっている。 ２．子どもの人権と最善の利益の考慮などを理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について学び実践できる。 ３．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にし、実行できる。

授業計画		
	第１回	保育実習、保育所実習について
	第２回	保育所実習の目的理解
	第３回	前期実習の目的（参加、観察実習）
	第４回	前期実習参加の心得
	第５回	実習手続き書類の作成指導（配当資料）
	第６回	実習手続き書類の作成指導（調査書）
	第７回	オリエンテーションについて
	第８回	持ち物、身だしなみについて
	第９回	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項
	第 10 回	参加、観察実習の留意点
	第 11 回	実習日誌の作成指導
	第 12 回	実習日誌の作成
	第 13 回	実習課題と準備の説明
	第 14 回	部分実習指導計画案について
	第 15 回	実習の総括と自己評価

授業に対する予習・復習		
	予習：　実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に励む。ボランティア活動などの実践の中で子どもとのかかわり体験をするように努める。	復習：　保育所実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にする。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート・課題（６０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（仮題）（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	１．各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。 ２．実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	担当教員	まるはしさとみ　とみやまふとし　おぐちすぐる 丸橋聡美・富山大士・小口 偉
		授業形態	演習		

授業の内容	この保育所実習研究Ⅱは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。
到達目標	１．保育実習の意義・目的を総合的に理解している。 ２．実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を身につけている。 ３．保育士の専門性と職業倫理を理解している。 ４．実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確になっている。

授業計画		
	第１回	後期実習の目的（参加、責任指導実習）
	第２回	後期実習参加の心得
	第３回	部分、責任指導実習の留意点
	第４回	実習日誌の作成指導
	第５回	実習日誌の作成①（乳児クラス）
	第６回	実習日誌の作成②（幼児クラス）
	第７回	指導計画案の作成指導
	第８回	指導計画案の作成①（乳児クラス）
	第９回	指導計画案の作成②（3 歳児クラス）
	第 10 回	指導計画案の作成③（4・5 歳児クラス・異年齢児保育）
	第 11 回	実習課題と準備の説明・作成
	第 12 回	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成
	第 13 回	実習の総括①　実習の振り返り・自己評価
	第 14 回	実習の総括②　グループワーク
	第 15 回	実習の総括③　自己課題の明確化

授業に対する予習・復習		
	予習：　保育所実習Ⅰを振り返り、次の実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に努める。	復習：　自己課題を明確にし、達成できるよう努力する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、諸手続き（１０％）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（仮題）（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	１．各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。 ２．実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	しのはらあみ　みよしちから 志濃原亜美・三好 力
		授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。
到達目標	１．実習施設についての理解が深まっている。 ２．実習課題が設定できる。 ３．自己の適性を理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション（履修上の諸注意）	第 16 回	提出書類の説明・確認
第２回	施設実習の意義の理解	第 17 回	実習報告書作成（前半）
第３回	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	第 18 回	実習報告書作成（後半）
第４回	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	第 19 回	実習日誌提出と確認
第５回	実習生調書の作成	第 20 回	実習評価と反省（個別面談）
第６回	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	第 21 回	実習評価と反省（個別面談）
第７回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	第 22 回	実習評価と反省（個別面談）
第８回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者支援施設）	第 23 回	実習評価と反省（個別面談）
第９回	各施設への実習前訪問	第 24 回	実習評価と反省（個別面談）
第 10 回	外部講師の話	第 25 回	実習評価と反省（個別面談）
第 11 回	実習の日誌の書き方	第 26 回	実習評価と反省（個別面談）
第 12 回	実習の各種手続き	第 27 回	実習報告会への出席
第 13 回	施設実習の内容	第 28 回	実習日誌返却と講評
第 14 回	実習に向けての心構え	第 29 回	今後の学習課題について
第 15 回	最終確認	第 30 回	まとめと課題

授業に対する予習・復習	予習：	復習：　復習シートを配布する。 感想文等、その都度指示する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない レポート（２０％）、課題（３０％）、授業態度（５０％）	
教科書	『保育士をめざす人の福祉施設実習』（伊藤貴啓編集代表、みらい）	
参考文献	『最新保育資料集 2016』（ミネルヴァ書房）	
注意事項	１．各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ２．**派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。**	